宇宙界
戦争
EP.
9
世界卍リベンジャーズ
与国 秀真
YOKUNI Hotsuma

はじめに

この漫画も今回で、エピソード９になりますが、中でも今回の内容は、「すべての日本人が知らねばならない」という大切な内容です。

なぜなら日本が金融的植民地であることを、理論的、科学的に証明している衝撃的内容だからです。

しかし今回の内容を理解するためには、他のエピソードを読まなければ、ご理解いただけないことでしょう。

なぜなら本作の中で、「史上最大の偽書」として、ある書物を紹介しておりますが、その書物の謎を解くためには、他のエピソードを読まない限り、不可能だからです。

しかし今回のエピソードから読み始めて、「これは本当なのか？」と疑問を抱き、確認するために、他のエピソードを読み進めていくのも良いかもしれません。

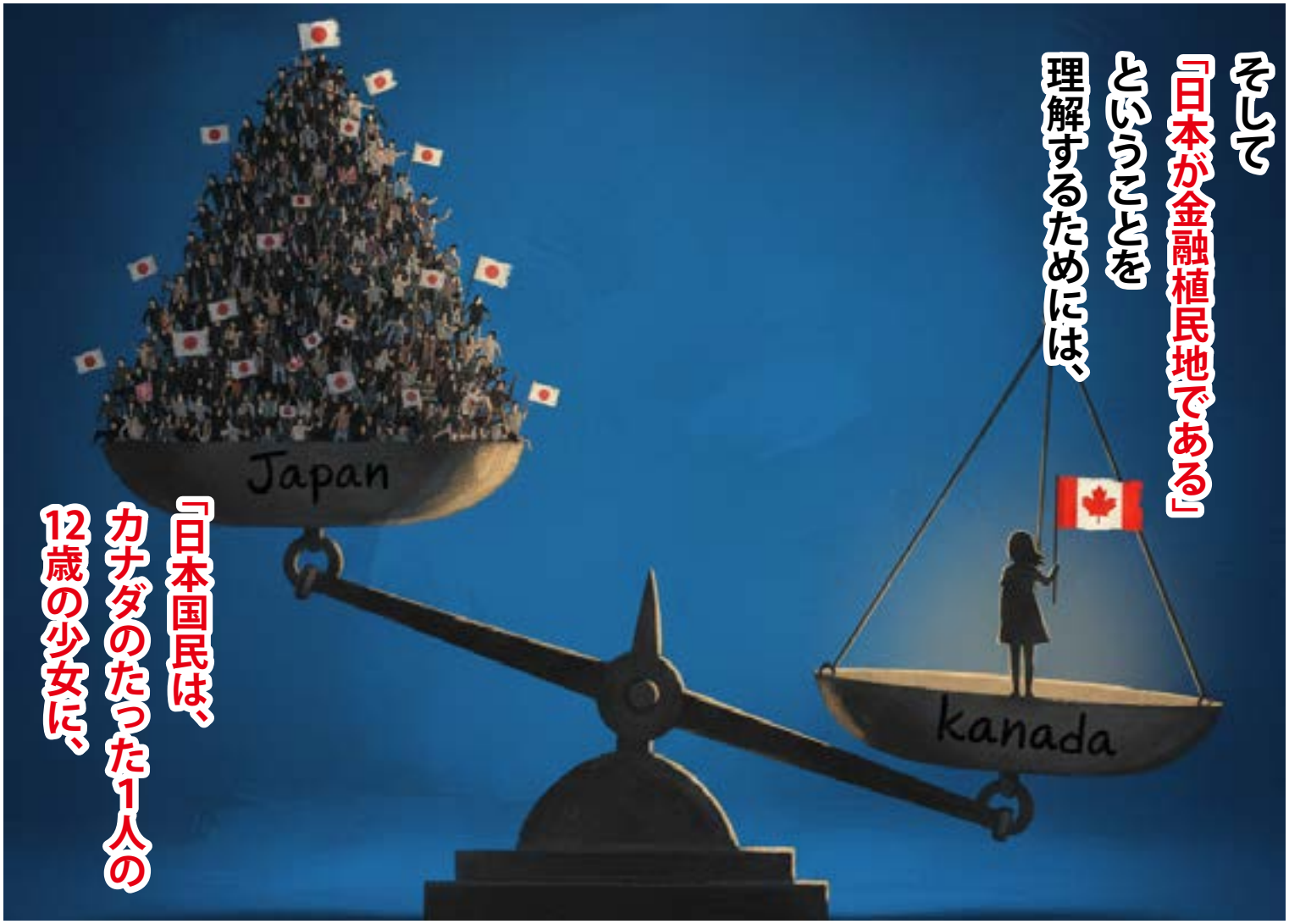
とにかく今回のエピソード９は、一人でも多くの日本人に、少しでも早く届ける必要があります。

ぜひ、貴方に読んで頂き、そして一人でも多くの方に、広めてくださることを、心より願ってやみません。

与国秀行

さて、そろそろ
「日本は先の大戦に敗れて以来、
実は金融植民地である」
ということを、
愚かにも少年時代は「勉強」よりも、
「喧嘩」なんぞに明け暮れてしまった
バカなオイラが証明してみたい。

そして
「日本が金融植民地である」
ということを
理解するためには、



「日本国民は、
カナダのたった1人の
12歳の少女に、

金融経済の知識では敗れている」
という悲しき現実を、
潔く受け入れなければならない。

「3S政策」などによって、GHQ占領軍だが、

日本をことごとく改造した

総司令官のマッカーサーはアメリカに帰ると、次のように述べた。

日本は、まだ12歳の少年。

悔しいけれども、ある意味、この言葉は金融経済においは、現実のものなのだ。

すでにEP（エピソード）8でご紹介したように、
『シオン賢者の議定書』という
一冊の偽書が存在しており、

その史上最大の偽書の中に、
こんな一説がある。

【第八の議定】

あらゆるインテリ（メディア関係者、弁護士、医師、政治家、官僚その他）に特殊教育を与えて、我々に従うように洗脳し、人間の深層心理とシステムを操るようにする。

経済学という偽の学問をひろげ、
銀行家や資本家も含めて、
彼らが悪いことをやっているように
見せかけ、経済学の裏に我々がいる
ことを気づかせないようにする。

指令に従わない者は
死刑や追放を検討し、

我々の奴隷にする。

何度も言うが、
この書物はユダヤ人を貶める
史上最大の偽書である。

しかし主語を『ユダヤ人』から、
『新約聖書』の『ヨハネの黙示録』に
記されている、
『ユダヤ人を自称する悪魔教徒』
と変えることで、

この偽書は、
悪魔教徒たちの戦略を暴く、
真実の書物となる。

そして今、
東大、京大、慶応や早稲田でも、
「経済学」が教えられているが、

・・・・・
現代の経済学が
偽の学問であったことを、
証明できれば、

先の敗戦以来、
日本が金融植民地であることを、
証明する一つの要因となるだろう。

なぜなら
「金融のカラクリ」を、
日本国民はじめ
人類の多くが知らされず、

こうしている今現在も、
ずっと真実を覆い隠されたまま、
たくさの税金を払わされて、
騙されていることになるからだ。

これを読まれている貴方が、
悪魔の存在を信じているか、
あるいは悪魔教徒の存在に気がついているか、
それに関わりなく、

この地球上において、
心間違えた者たちは確かに存在し、
彼らは我々を奴隷にしようとしている。

なぜなら
他のエピソードで述べてきたように、
悪魔教徒たちは、
「通貨発行権」に始まり、

石油などあらゆる利権を握ることで、
すでにあらゆる欲望を
満たしているからだ。

そのために
彼らに残った欲望は、
「支配欲」と
「狂った性欲」くらいである。

だから
「大衆にはなるべく
たくさん税金を払って、
貧しくなってもらって、

簡単に管理できる数まで
人口を削減したい」
それが彼らの考えである。

つまり気づくか気づかぬか、
それに関わりなく、
我々は今現在も、
戦場の真っただ中にいるのだ。

そして人類は、
この終末の戦(いくさ)、
つまり善悪二つの勢力の
最終的な戦のことを、
「ハルマゲドン」
と呼んで来た。

では、この戦(いくさ)において、
大切なことは果たして何か？

その一つに『情報』がある。

たとえば先の大戦における
日本のナチス・ドイツに
対する情報分析は、
『低かった』、『不十分であった』
と、評価されている。

それは日本側に
「情報」を軽視する
風潮があったこと、

ナチス側の
プロパガンダに
簡単に騙されたこと、

これら二つの理由によって
当時の日本は
正確な情報が不足していた。

そのために残念ながら日本は、
「悪名高きナチスと手を組んでしまう」
という間違いを犯してしまった。

それが、
戦後の日本人が「自虐史観」を、
染まることに繋がり、

結果的に、
「日本人としての誇り」を
失うことにも繋がり、

そして
「3S政策」を受け入れる
土台となってしまった。

戦において大切なのは、
まぎれもなく
『情報』。

「彼を知り、己を知れば、
百戦殆からず」
というように、

戦において、
『情報収集能力』と『情報分析能力』は、
必須である。

だから我々も、
悪魔および悪魔勢力に勝つために、
『情報』というものを、
重視しなければならない。

戦の要諦は、
敵の戦略を
いち早く見抜くことにある。

これを踏まえて述べるが、
すでにイギリスでは、
新生児で最も多い名前は、
「ムハンマド」となっている。

同じことは、
デンマークでも起きており、
デンマーク人はこう口にする。

「デンマークはもう終わった」

※埼玉県戸田市の市議会議員 河合雄介氏の動画で、
デンマーク人はそう語った。

このままでは日本も、
同じ未来が待ち受けていることだろう。

もちろん
生まれて来る子どもに罪は無い。

教育や文化が異なり、
価値観が違う移民が増えれば、
混乱が生じるのは歴然だ。

やめて！嫌！

EP８で紹介したように名古屋市で、
朝の通勤途中の２８歳の女性が外国人男性に襲われた。

移民を推進している
『ＮＡＧＯＭｉ（ナゴミ）
（外国人材共生支援全国協会）』
という組織があり、

会長は元衆議院議員の武部勤、
最高顧問は二階俊博などの
元自民党議員たちが名を連ね、
『全国知事会』と連携して、
日本に移民を増やそうとしている。

すでに小池百合子
東京都知事は、
エジプト人の就労協力を
合意している。

この「エジプト合意」は、
「エジプト移民の受け入れ」
そのものではないが、しかし
移民受け入れ促進につながる。

「国境は要らない」
と述べているジョージ・ソロスと、
小池百合子知事は親しい間柄であり、
確実に日本は今、
移民推進に舵を切っている。

すでに他のEPで述べたように、
埼玉県川口市のクルド人問題にも、
NGO『JANIC（ジャニック）』
を援助することで、
ソロスの
『オープン・ソサエティ財団』が
陰から深く関わっている。

すでに日本は今、
世界第5位の移民大国であり、
エジプトで最も多い名前も、
「ムハンマド」であるから、

日本が、
イギリスやデンマークのように
終わりを迎えるのは、
このままでは時間の問題である。

自民党は常に移民推奨であり、
高市早苗は、
首相になる前は、
「移民政策はゼロベースで見直す」
と述べていたが、

しかし首相の座についたら、
手のひら返しで、
「２０２８年度末までに
１２３万人の移民」
ということを述べている。

愚かにもドイツは、
２０１３年に１７万人、
２０１４年に２０万人、
２０１５年には１１０万人、
つまり三年間で１４７万人も、
移民を受け入れた。

すると、
「ケルン集団性暴行事件」
が発生した。

２０１５年１２月３１日、
アラブ人や北アフリカ人を主体とした
約１０００名による、

女性に対する強姦を含んだ
集団強盗・性的暴行事件である。

残念ながら、
あまりにも
モラルが違い過ぎるのだ。

たとえば2013年、
ナイジェリア警察は
妊娠中の少女17人と
子ども11人を
保護したのだが、

地元メディアは
「赤ちゃん工場の摘発」と伝えた。

少女らに無理やり出産させ、
第三者に売却していたという。

「特定技能1号」は滞在期限があるが、
しかし「特定技能2号」に移行すると、
在留期間が無期限となり、
さらに家族の呼び寄せも可能になる。

この自民党の移民推奨の背後には、
実は巨大な利権構造があり、
日本語学校や派遣ブローカーなどが、
年間で数千億円の利益を上げている。

このままでは日本も、
大混乱になることだろう。

たとえばイギリスでは、
増えた過ぎたイスラム移民が、
法律の上に『シャリーア法』を
置くことを求めている。

英国にシャリーアを！
アッラー（アッラーは偉大なり）・アクバル！

☜その動画はコチラ

こうしたことについて、
アメリカのトランプ大統領も、
非難している。

ロンドンには
ひどい市長がいる。
今はシャーリア法を
やろうとしている。

『シャリーア法』とは、
預言者ムハンマドが、
神から授かった言葉による
『コーラン（聖典）』と、

そしてムハンマドの言行録である、
『ハディース』が元になっている。

しかしムハンマドが生きた時代は、
アラブ社会は統一国家が存在せず、
部族同士の争いが絶えない、
戦国時代であった。

そのために
その当時に作られた法律を、
現代にそのまま、
特に非イスラム圏に
適用することは不可能である。

たとえば日本の戦国時代、
織田信長の娘の徳姫が、
わずか9歳で、
徳川信康に嫁ぐという
政略結婚が行われた。

そしてムハンマドの時代も、
戦国時代であったために、
多くの女性が未亡人となった。

そのために現代にも、
一夫多妻のイスラム教徒はいる。

また、ムハンマドは、
アーイシャという少女と、
6歳で婚約し、
9歳で結婚している。

特定の宗教などにおいて、
教義を絶対視して、
厳格に守ろうとする人のことを、
「原理主義者」と呼ぶが、

このムハンマドが
アーイシャと結婚した一件をもとに、
「シャーリア法」では結婚最低年齢を
9歳としており、
そして
イスラムを原理主義者たちは、
幼い少女と成人男性が結婚することを、
当然と考えている。

たとえば2014年3月、
イエメンの
ライラちゃん（13歳）は、
いつものように学校から
帰ってくると、

母親が泣いており、
彼女は急に不安になった。

父親はライラちゃんに
こう告げた。

お前は結婚する
ことになった！

彼女は泣き叫んだ。

父親はさらにこう告げた。

もし結婚しないのなら命も保障しない！

逃げ出して、保護された彼女は、こう語っている。

私の人生が音を立てて崩れ落ちていくように感じました。この悪夢から目が覚めて、友達のいる学校に戻りたい。

詳しい情報はコチラ

同じイエメンでは、
8歳の少女が、
40歳の男性と結婚させられたが、
しかしその少女は、
新婚初夜の性行為によって、
子宮破裂によって、
内出血のため死亡した。

☜詳しい情報はコチラ

ロリコンはさておきにしても、

「成人した男性が、
幼い少女と結婚するなんて、
信じられない！」
それが日本人男性の
一般的な意見だろう！

しかし、
「百聞は一見に如かず」というように、
動画をご覧になれば納得するだろう。

イスラム教徒の成人男性と、
幼い少女の結婚の動画☞

こうしたイスラム原理主義の思想が、
日本にも流れ込んでくるのは、
このままでは時間の問題と言える。

そして人数が増えれば、
イギリスのように、
「シャーリア法を日本の法律に！」
と、彼らは主張することだろう。

マレーシアのイスラム指導者は言う。

西側諸国（日本を含む）は、
これから我々ムスリムが多数派になり、
シャリーア法で支配する。

非ムスリムは保護税を義務付ける。
拒否すれば奴隷にする。

yayasantaalim.blogspot.
☜詳しい情報はコチラ

さらに
イスラム指導者は言う。

奴隷制度はイスラム教徒が
恥じるべきものではない。
非ムスリムは不信仰者だ。

私たちは彼らを奴隷にする。
でもこれは彼のためだ。
奴隷の鎖が彼らを
イスラム教を受け入れさせ、
楽園に導くのだ。

☜詳しい情報はコチラ

女性イスラム学者は
こう述べている。

アッラーはイスラム教徒の男性が
非イスラム教徒の女性を
レイプして辱めることを許している。

イスラエルと戦えば、
彼らの女性や性奴隷を
奪える。

☞詳しい情報はコチラ

ドイツ在住のムスリムは
挑発的にこう述べている。

これは始まりに過ぎない。
俺たちはより多くの子供を
作ることで広がっていく。
ドイツ全土がモスクで溢れかえる。

俺たちが多数派になるから、
お前たちは何もできない。
ここは俺たちの帝国だ。
お前たちの負けだ。

☞詳しい情報はコチラ

もはやイギリス、
特にロンドンでは、
英語を聞くことのほうが稀で、
法律や条例も
イスラム寄りに代わり、

そしてイスラムでは犬を
「不浄」と考えるために、
ロンドンでは、
犬を散歩しているだけで
捕まる事態となった。

フランスでも、ドイツでも、
元から住んでいたフランス人、ドイツ人は、
小さくなって肩身狭くして暮らし、

飛び交う言語はアラビア語で、
イスラム系移民が、
大手を振って街を闊歩している。

すでにヨーロッパでは、
移民の増加と関連して
レイプや性犯罪の報告数が
増加している。

特に移民や難民に寛容な
「人道大国」スウェーデンは、
レイプの報告発生率が
非常に高くなり、
日本の63倍である。

そうしたこともあって
2024年9月、
スウェーデン政府は、
帰国を自主的に決めた
移民に対して、
1人当たり最大
35万クローナ（約490万円）を
給付する新制度を発表した。

すでに述べたように、
ロンドン市長の
サディク・カーン氏や、

ニューヨーク市長の
ゾーラ・マムダニ氏も、
イスラム系であるが、

すでに日本にも
イスラム系議員はおり、
スルタン・ヌール氏は、
山形県庄内町議員を二期務め、

町長選に出馬して敗れ、
町長にはなれなかったことで、
議員資格を失った。

そして、
中国移民も激増する中、
２０２５年12月、
中国から日本に
拳銃24丁を持ち込んだ男が、
逮捕された。

この男は１丁、
わずか３千円程度の、
激安価格で、
拳銃を販売していたという。

殺傷能力ある玩具銃を中国から密輸か

ABEMA news

またオモチャでありながらも、
本物の拳銃と同様に、
殺傷能力を持つ銃が、
クレーンゲームの景品で、
日本国内に出回って、
騒ぎにもなっており、
その数は１万６０００丁である。

すでに他のEP（エピソード）で述べたように、
中国には「国防動員法」
という法律があるために、

有事の際には、
全世界の13億人の中国人は
兵士として祖国のために、
立ち上がらなければならない。

しかも、すでに今、
私たち日本国民には、
「経済版ホロコースト」
が始まっていると言っても、
過言ではない。
HIKE
TAX
水産
ガス
カツ
請求

「富める者は貧しき者を治め、
借りる者は貸す者の奴隷となる」

これは
『旧約聖書』の
『箴言第22章7節』の
有名な言葉だ。

実のところ『聖書』は、
「銀行業」というものを、
固く禁じている。

しかし
これも何度も述べてきたが、
一部のユダヤ人には、
「選民思想」がある。

アブラハムよ
我は汝の子孫に
カナンの地を与える

そして一部の
ユダヤ教徒の中には、

「聖なる目的のためなら
皆殺しても構わない」
という『ヘーレム』、
「聖絶思想」もある。

さらにユダヤ人を自称する
悪魔教徒たちは、
銀行業というものを通じて、

我々をより貧しくし、
奴隷として完全支配しようとしている。

すでにEP(エピソード)3などで述べてきたように、
彼らが「貧困」と「悪徳」を
望んでいることを忘れてはいけない。

そして
「悪魔教徒」と「銀行業務」という、
これらのことを見ていくことによって、

本書の冒頭でご紹介した
偽書『シオンの議定書』に記されている、
「経済学という偽の学問をひろげ、
我々の奴隷にする」
という言葉の意味が深く理解できるのだ。

そして実はこの言葉を
正しく理解することこそが、
日本が金融植民地であること、
日本人がATMであることを
深く理解することに繋がっていく。

実際に経済学者で、
『円の支配者』を書かれた
リチャード・ヴェルナー教授が、
インタビューで驚くべきことを、
明らかにしてくれた。

『日銀』は80年代、バブル経済を意図的に作り出し、そして壊した。

それには証拠があり、目撃者の証言、データがあります。

WHY？なぜ『日銀』はそんなことを？

インタビュアー：タッカー・カールソン

その後の大規模な長期不況を起こすためです。

かなり残酷で狂っています。

※バブル経済崩壊後、毎年1万5千の会社が倒産し、
完全失業者は３００万人を超えた。
またバブル以降、毎年約3万人の自殺者を出すことで、
この３０年のあいだに約１００万人が自殺した。

日本の成功したシステムを破壊するためです。

六十年代、七十年代、八十年代と、
日本はあまりにも成功し過ぎた。

リチャード・ヴェルナーの証言から、
「バブル崩壊によって、
多くの会社が潰れた」
のではなくて、

「バブルと一緒に、
多くの会社が意図的に潰された」
という恐るべき事実が明らかになった。

つまり悪魔教徒たちは、
80年代から、
日本の経済を
脅威と見なしており、

あえて彼らは、
日本人を貧しくするために、

『日銀』の上にある
『BIS』を使って、
『日銀』を通じて、
意図的に『バブル』作り出し、破壊し、
長引く不況を作り上げたというのだ。

そして実は今また、
日本の企業の倒産件数は、
バブル不況期に近づいている。
本漫画をここまで読んで、
現在の失業者の増加を
偶然と考えるのは愚かである。

リチャード・ヴェルナーの著書
『円の支配者』を読むと、
よく理解できるのだが、

明らかに『日銀』が行ったことは、
日本国民を貧しくして、
そして苦しめることであった。

考えられるだろうか？

私たち日本国民が、
日々、使っているお金の発行元、
すなわち『日銀』が、
悪魔教徒の手先となって、
常日頃から、
私たちを貧しくしようとしているなんて。

日本は先の大戦に敗れ、
東京は焼け野原となり、

特に広島、長崎は、
悲惨な焦土と化した。

しかし日本人は、
「勤勉な国民性」ゆえに、
類い稀な技術力によって、
欧米人が作り上げた車、
あるいはテレビなどの電化製品を、
自分たちの手によって、
より良質なものへと作り上げて、
高度経済成長を遂げた。

そのために日本は戦後、
驚異的な復興をみせて、
あっという間に
アメリカの経済力に
追いついてしまった。

1980年代初頭、
「日本製」が一つのブランドとなり、
世界中で
「メイド・イン・ジャパン」
の商品が売れまくった。

そのために当時の日本には、
たくさんの「ドル」があり、
当時は1ドル240円だった。

MADE IN
USA
JAPANES
IMPORT
しかし国際銀行家に操られる、
アメリカの強引な要求によって、
日本は「プラザ合意」に従った。

この「プラザ合意」の背後で、
何が起きていたのか、
この動画をご覧になっていない方は、
コチラの動画をどうぞ

おススメ動画

JAL123便
墜落の本質

この「プラザ合意」によって、
円相場はわずか1日で、
1ドル約20円下落し、
翌年には150円台になり、
やがて120円台となった。

たとえば日本人が
たくさん良質のものを作って、
それを海外に100ドルで売ったとする。

1ドル240円ならば
24000円の儲けだが、
SELL FOR
$100
JAPAN
しかし1ドル120円ならば、
12000万円の儲けしかない。
SELL FOR
$100
USA
WINS!
USD/JPY
YEN CRASH
PROFIT CUT IN HALF
JAPAN
つまり円相場の下落によって、
利益が半分になったことを意味する。

これはすなわち、
100万ドルの資産を
持っていた企業や個人は、
ほんのわずかな期間に、
その半分の1億2000万円を
失ったことになる。

単純に言って、
戦勝国アメリカによって
敗戦国日本に押し付けられた
「プラザ合意」とは、
日本人が汗水流し働き、
そして得た利益（貿易黒字）を、
強引に、力技で、
半分以下にまで下げさせられた
不平等な合意であり、
その一ヶ月前には、
日本航空123便が・・・。

そして
リチャード・ヴェルナー教授が
述べた言うように、
90年代に入ると
「バブル潰し」が行われ、

1995年からこの三十年は、
日本のGDP（国内総生産）
の成長率は、世界178カ国
の中で最下位である。

国際銀行家にオモチャに
されているアメリカでも、
GDPの成長率は、
この三十年で3倍になり、
中国にいたっては約20倍だが、

しかし
「ユダヤ人を自称する悪魔教徒」から、
常に驚異に見られている日本だけは、
戦争しているわけでもないのに、
GDPの成長率は1倍以下である。

これはまさに異常である。

また「プラザ合意」当時の日本人は、
「半導体」という次世代技術において、
世界を牽引できるところまで、
技術開発を進めていた。

半導体とは、
パソコンや電化製品の中を開いてみると、
内部にある基板のようなもので、
パソコンからあらゆる電化製品、
交通や通信など、
様々なところで利用されており、
私たちの暮らしには
欠かすことのできない存在だ。

日本人はこの「半導体技術」によって、
21世紀の技術力において、

世界を先駆けていくはずだった。・・・

しかし「プラザ合意」の翌年、
「日米半導体協定」が結ばれて、
日本は半導体の分野で、
急速に国際競争力を失った。

この協定の正式な内容は非公表だが、
明らかにされている内容を単純に言えば、

「オレたちに
守ってもらっている
敗戦国の日本は、
勝手に半導体を造って
世界に売ってはいけない。

日本国内でも、
国産で使用できる数量を
限定して、
アメリカ産の半導体を
使用しなければならない」

という強引で、
不平等なものだった。

そのために各企業の半導体技術者たちは、
窓際へと追いやられた。

当時、『東芝』で半導体部門を率いた
元副社長の川西剛氏は、
その時の様子を振り返る。

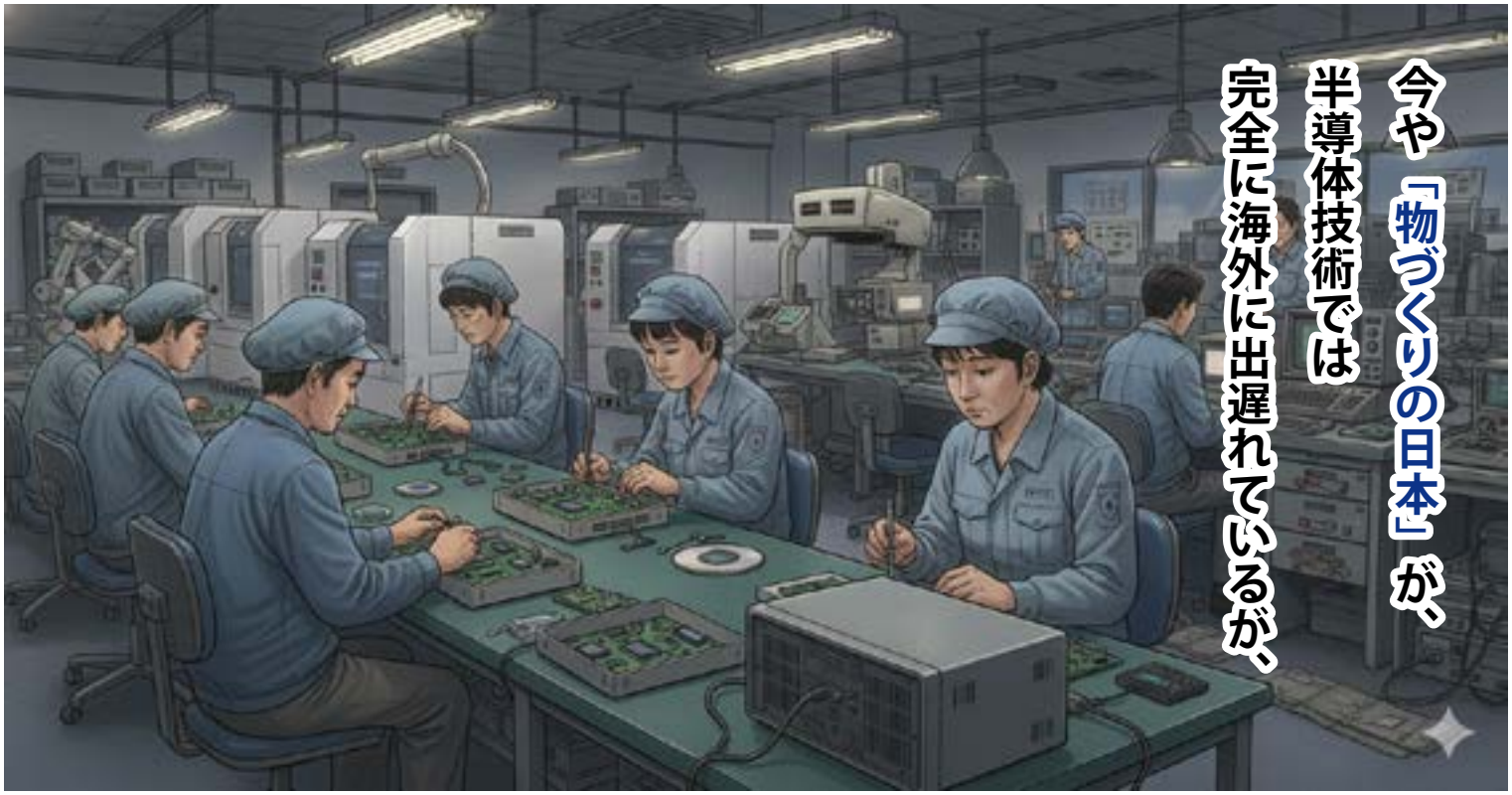
俺たちが発明して、
俺たちが広めた物を
おまえらが横取りして、
米国になだれ込んでくる
なんてもってのほかだと。

平たく言えば
そういう論理だった。
理屈じゃない、
めちゃくちゃだったね。

「日米半導体協定」締結の結果、
日本の半導体技術者たちは、
週末に韓国や台湾といった
近隣諸国に出かけて行って、

土・日に外国企業に
半導体技術を密かに教え、

月曜の朝には、
日本に帰国して出社し、
また窓際に座る、
という愚かしいことを
本当に行った。



今や「物づくりの日本」が、
半導体技術では
完全に海外に出遅れているが、

やはりその原因として、
「日米半導体協定」が
あったと言えるだろう。

またEP3（エピソード）で述べたように、
90年代に入るとアメリカは、

規制改革要望書

日米規制改革および競争政策
イニシアティブに基づく
日本政府への米国政府要望書

2001年10月14日

Annual Reform Recommendations
from the Government of the United States
to the Government of Japan
under the U.S.–Japan Regulatory Reform and
Competition Policy Initiative

October 14, 2001

あからさまな
内政干渉をしてきて、
「年次改革要望書」
というものを突き付けてきた。

この内政干渉によって、
「派遣法」は改悪させられ、
それまで禁止されていた
製造業でも
派遣社員を
使えるようになり、
急激に正社員が減って
派遣社員が増えた。

大勢の日本国民が、
派遣社員となり、
給料を派遣会社に
ピンハネされて、

貧しくさせられている一方で、

派遣会社ばかりが大儲けしてきた。
GROWTH

しかし
「巨額の政府の借金」とか、
「失われた三十年」などと
言われているが、

実は気がついていないだけで、
日本人は日々、
勤勉に努力しているために、
本当は、今なお
「超」がつくお金持ちなのである。

日本の政府や企業、個人が
外国に持っている資産、
つまり「対外純資産」は、
34年ぶりにドイツに抜かれた
と言っても、
まだ世界第二位である。

サウジアラビアとUAEは、
税金が「0円」だが、
それは「対外純資産」を、
きちんと運用しているからである。

しかし日本は、
サウジアラビアやUAEよりも、
巨大な対外純資産
530兆円を保有している。

つまり、
豊かな日本人が、
「自分たちは豊かである」
と、気がつきさえすれば、

表現を変えれば、
日本人の意識さえ変われば、
日本経済を大復活させることは、
・・・・
今はまだ十分に可能なのだ。

経済の専門家たちは、
なぜ日本政府、
日本の政治家たちが、
きちんと対外純資産を
活用しないのか、
そのことに首をかしげる。

しかし答えは明白だ。

先の敗戦以来、
日本政府は、
「日本国民を貧しくしたい」
と考える勢力の手の中に
存在しているからだ。

結論から先に言おう。

「プラザ合意」から、
『日銀』による意図的な
「バブル経済」と「バブル潰し」、

そしてその後の
『日米半導体協定』、
「年次改革要望書」、

さらには、
消費税等の繰り返される
増税による「長引く不況」は、
実は日本の
二度目の敗戦であった。

現在の日本の貯蓄ゼロ世帯の割合は、
すでに全体の約20%以上となり、

単身世帯では約36%となっており、

多くの日本国民が
食べることにも困り、
結婚や子育てを
あきらめる人も大勢おり、

はたらけどはたらけど、
暮らしが楽にならないのは、

悪魔教徒たちが、
我々の『貧困』と『死』を
心の底から望んでいるからである。

我々の心臓は、
1分間に約60回から100回、
1日では約10万回、
一生で40億回以上も動くが、

しかしその我々の心臓を
1回でも少なく、
一秒でも早く、
止めたい者たちが確かにいるのだ。

そして日本の政治家、
さらには官僚、

ついでに有名一流大学の
多くの経済学者、

もちろんマスコミも、
その悪魔教徒の望むままに、
動いている。

人材派遣会社『パソナ』の
代表取締役会長の竹中平蔵はこう述べる。

彼は慶應大学の名誉教授であり、「世界経済フォーラム」理事であり、
2025 年に旭日大綬章を受賞している。

民間議員として内閣にも入っていた竹中平蔵は、さらにこう述べる。

皆さんには貧しくなる自由があるということだ。

貧しさをエンジョイしたらいい。

ただひとつだけ、
成功した人の足を引っ張るな。

このEP9を読み進めれば、
竹中平蔵が羊を追い立てる、
シープドッグであることが
よくお分かりになるだろう。

そして実はこうした間接的な
金融植民地支配の構図は、
日本以外の多くの諸外国にも、
同じことが当てはまる。

このEP（エピソード）9は、
日本が金融植民地であることを
証明するわけだが、

2025年に癌で亡くなられた
森永卓郎さんは、
書籍『ザイム真理教』の中で
こう語っている。

財務官僚たちは
1%でも増税すれば
出世を遂げて、

1%でも減税すれば
降格させられる。

亡くなった後に出版された
『回顧録』という書籍の中で、
安倍元総理は
こう語っている。

彼ら（財務官僚）は
省益のためなら
政権を倒すことも辞さない。

実際に日本には、
「政府の借金」はあっても、

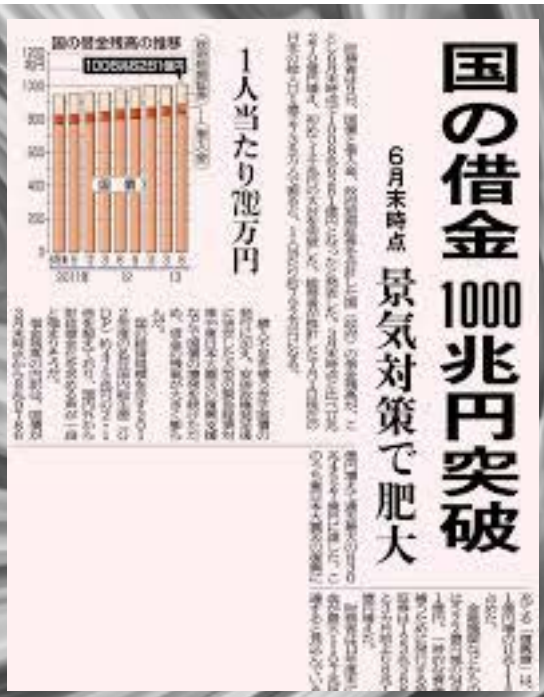
「国家の借金」は存在せず、
だから増税する必要など
本当はまったくない。

「お金の仕組み」については、
いずれ詳しく説明するが、
麻生太郎なども、
このことは十分に知っている。

マスコミが世の中へ流し、
多くの人が信じている
間違った話が
一つあると思います。
それは、日本という国が
破産する、って話。

そうです、
国民が貸しているんだね。

ところが新聞を見てごらん、
「子どもや孫に至るまで
一人700万円の借金」


国の借金 1000兆円突破
6月末時点 景気対策で肥大
1人当たり850万円
国の借金残高の推移

違うでしょう！
７００万円の貸付金が
起きているんですよ、あれは。

貸しているのはみなさん。

「いや俺、国債なんか買ってないよ」
と言われるかもしれませんが、

みなさんはお金を銀行に
預けておられる。

銀行にとって預金は借金ですから、
帳簿の上では借金ですからね。

だからその借金を誰かに貸して、
そのさやを稼がないと
金貸しという商売は成り立ちません。

銀行って聞こえはいいですけど、

金貸しをやっているんですから。

金を借りる人がいてくれない限りは
あの職業は成り立たないんだから。

ところが今、みんな借りない。
誰もお金を借りようとしない。

少なくとも、預金する人は
多いけれども、借りる人が
いなければ銀行は潰れてしまう。

【中略】それを（銀行から）
借りてくれているのが政府。

政府が（銀行から）借りて、
みなさんが（銀行に）貸してるの。

【中略】日本の政府が（銀行に）
借金しているのであって、
みなさんが借金しているのではない。

日本政府がやっているんですから、
日本政府が（お金を）印刷して
（銀行に）返すだけでしょうが。

この麻生太郎の話の
続きが知りたい方は、
←コチラをどうぞ。

ブラジルやギリシャのように、
「国家の借金」の場合は、
財政破綻の危機があるが、

しかし「政府の借金」の場合は、
実際は借金ではなく、
お金を貸しているのは国民である。

つまり「国民の資産」なのだ。

しかし日本の政治家たちは、
日本が財政破綻しないことを、
あえて知りながらも、
それでも「国民の資産」を
わざわざ「国家の借金」
と呼び変えて、確信犯的に
増税を繰り返しているのだ。

消費税増税ができる環境は
続いているとの認識を改めて示す

しかも、民主党は政権を担う時代、
消費増税にわざわざ「党議拘束」までかけた。

「党議拘束」とは、
党の方針として決定した事項について、
所属する国会議員には従った投票・行動を
することを義務付けることである。

『日米合同委員会』の下部組織にある、
内閣、国会、行政、
そして経済学者たちが、
悪魔の『増税路線』に抗えるわけなどなく、

それはどこの政党も
まったく同じで、
もちろん『自民党』だって、
日本を破壊する『移民政策』、
国民を殺す『増税政策』に対して、
『党議拘束』くらい簡単にかけるだろう。

実際に小泉政権が推し進めた、
日本国民の郵便貯金300兆円を、
外資企業が自由にしてしまう
「郵政民営化」の際、
この「郵政外資化」に
賛成した者は政治家になり、
反対した者は議員バッチを失った。

そして今、
必要のない借金返済のために、
大増税が行われようとしており、

これはまさに、
「経済版ホロコースト」
なのだ。

たとえば財務官僚の最高位にいる事務次官の矢野康治氏は、2021年11月号の『文藝春秋』で、

『財務次官、モノ申す
「このままでは国家財政は破綻する」』
という論文でこう語った。

今の日本の状況をたとえれば、
タイタニック号が氷山に向かって
突進しているようなもの。」

この矢野論文は、
経済学者たちの間で議論となった。

そして竹中平蔵の後輩にあたる
慶応大学の小幡績教授は、
『東洋経済オンライン』で、
矢野論文についてこう述べた。

このままでは国家財政破綻論は
1%だけ間違いだ。

間違っている1%とは、
日本財政は必ず破綻する。

まさに史上最大の偽書

『シオンの議定書』にある通りである。

【第八の議定】

あらゆるインテリに特殊教育を与えて、我々に従うように洗脳し、経済学という偽の学問をひろげ、指令に従わない者は、死刑や追放を検討し、我々の奴隷にする。

このように、
財務官僚と経済学者が、
タッグを組んで、
マスコミをも動かすことで、
大増税が行われていくわけだ。

たとえば2011年に
東北で震災が起こった時、
財務官僚は「復興特別所得税」を
企画した。

これによって
2013年1月1日から
2037年12月31日までの
25年間、
所得税額×2.1%が
追加的に課税されることになり、
57年までの延長も検討されている。

悪なる勢力は、
本気で私たちを殺しにかかっているのだ。

働けば所得税、

起業したら法人税、

退職したら退職課税、

買ったら消費税、

持ったら固定資産税、

生きれば住民税、
（前年の所得による）

飲んだら酒税、

吸ったらタバコ税、

乗ったら自動車税とガソリン税、

入ったら入浴税、

死んだら相続税、

あげたら贈与税、

若ければ年金、

老いたら介護保険料、

日本は今、
宝くじに当たるか、
泥棒に盗まれるか、
それ以外は、

お金が動けば、
私たちを貧しくするために、
必ず税金が発生する。

しかも今後も
私たちを殺すために、
住民税はじめ、
増税が行われていく予定だ。

たとえば、
車やバイクを車検に出す際、
その走行距離に応じて税金を取る
「走行距離税」も、
すでに検討されている。

これはつまり、
日本のすべての道路が
有料化することを意味し、
有料道路にいたっては、
税金の二重取りだ。

こうした「増税企画」を考えて、
経済学者を巻き込み、
政治家を動かし、
マスコミをも操って、
見事に1%でも増税を成功させた
財務官僚こそ出世を遂げて、
もしも1%でも減税したら降格、
もしくは左遷させられる、

そして財務省に逆らえば、
時の政権さえ倒しにくる、
それが日本の財務省である。

しかも今、
高い食費に多くの国民が
苦しんでいるのも、
やはり結局は財務省に責任がある。

実は
日本の農家は今、
燃料、肥料、飼料などの
価格が急騰、
高齢化などを理由に、
軒並み潰れている。

農家が減れば、
収穫できる作物も減り、
米や野菜の価格が上がるのは、
当然である。

農家が減らないように、
燃料、肥料、飼料などの価格に対して、
（補助金等で）責任を持つのが
農林水産省であり、
その農林水産省に対して、
予算配分を行うのも、
やはり財務省である。

しかし
「農家の時給は十円」
とも言われているこの時代において、
財務省は農家が持続し、
食費が安くなる方向には
舵を切ることはない。

むしろ財務省や農水省は、
外資系の食品企業が、
日本で売り上げを伸ばす方向にばかり、
舵を切っているのだ。

具体的に言えば、
食品会社『モンサント社』を買収した
製薬会社『バイエル』が、
遺伝子を編集する
『ゲノム技術』を用いた
トマトや魚などを
日本で流通させている。

私たちはすでに、
ゲノム編集された食品を、
知らぬ間に口にしている。

しかし海外では、
「ゲノム編集食品は安全が確認されていない」

と、日本の食品が危険視されて、
注意が促されてる。

さて、話題を
我々を殺す税金の話に戻すが、
日本の政治は今、
わざわざ「国民の資産」を
「国家の借金」と呼び変えることで、
必要のない増税によって、
日本国民を苦しめ、

日本の農家は潰れて、
食品は値上がりする方向に、

外国の食品企業が売り上げを伸ばして、
危険視される食品が流通する方向に
舵を取っているわけである。

その中心的な役割を担っているのが、
財務省であり、
その財務省に大人しく、
従っているのが、
現在の我々日本国民なのである。

だから書籍『ザイム真理教』の中で、
森永卓郎さんはこう述べる。

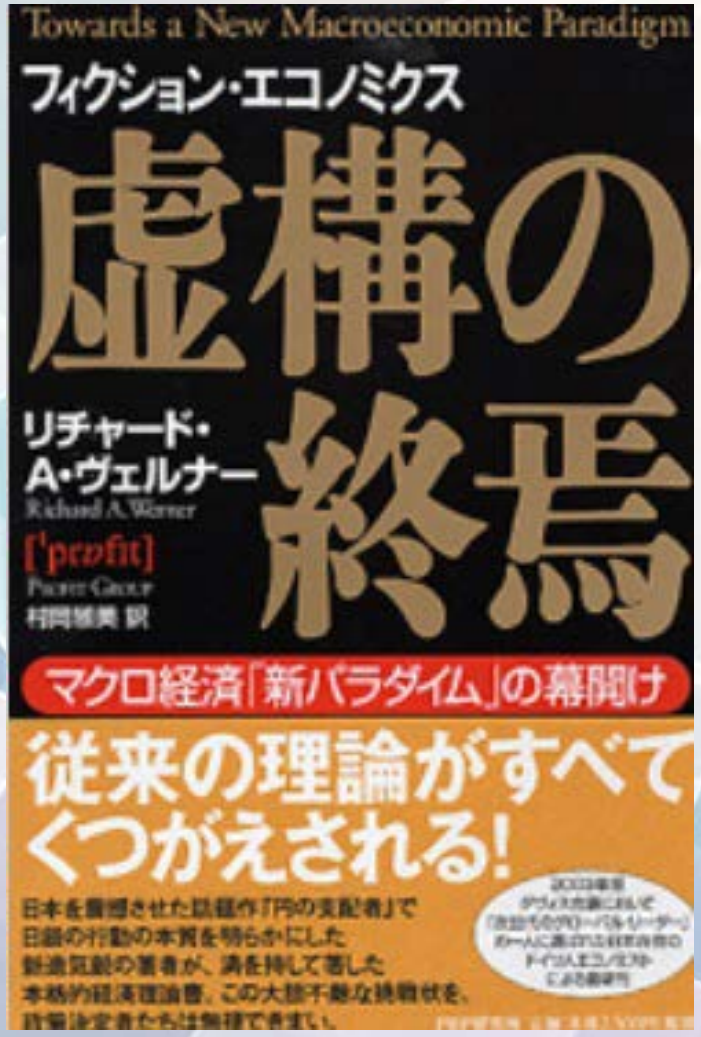
まるで財務省は、
『オウム』のような
狂ったカルト宗教と化しており、

日本の有権者８０００万人が
そのカルト教団の信者である。

悲しいことではあるが、
いつの間にか我々日本国民は、
「ザイム真理教」という
カルト宗教の信者であったのだ。

なぜなら我々日本国民は、
「3S政策」等によって、
政治に無関心になることで、
無意味な増税を行わせ続け、
移民政策等によって、
日本の破壊を許し続けて、
自分から死に向かっているからだ。

しかも先ほど紹介した
経済学者で教授でもある
リチャード・ヴェルナーは、



著書『虚構の終焉』の冒頭で、
次のような驚くべきことを
述べている。

経済学は
フィクション（虚構）であり、

人々から宗教のように信じられているが、
まさに邪神崇拝であった。

このように、
悪魔による貧困化を
食い止めるためには、
「経済学」という偽の学問、

すなわち虚構の邪神崇拝を、
我々はやめなければならない。

すでにエピソード4で紹介したように、
同志社大学の元教授の山口薫さんは、
「世界のトップ10に入る」
と言われている

カリフォルニア大学バークレー校で、
ノーベル経済学者たちから、
経済学を学んで来られたが、

しかしその彼が、
自身の著書『公共貨幣』の中で、
次のように述べている。

現在の経済学では
中央銀行について
何も教わることはなく、

また現在の貨幣制度
というものは、
我々が教えて頂いた
経済学とはまったく異なり、

中央銀行が「無」から
お金を創り出している。

東大だろうが、
オックスフォード大学だろうが、
ケンブリッジ大学だろうが、
世界中の一流大学では、

経済学の授業で、
「中央銀行」と「通貨発行権」
というこの大問題は
完全にスルーされてきた。

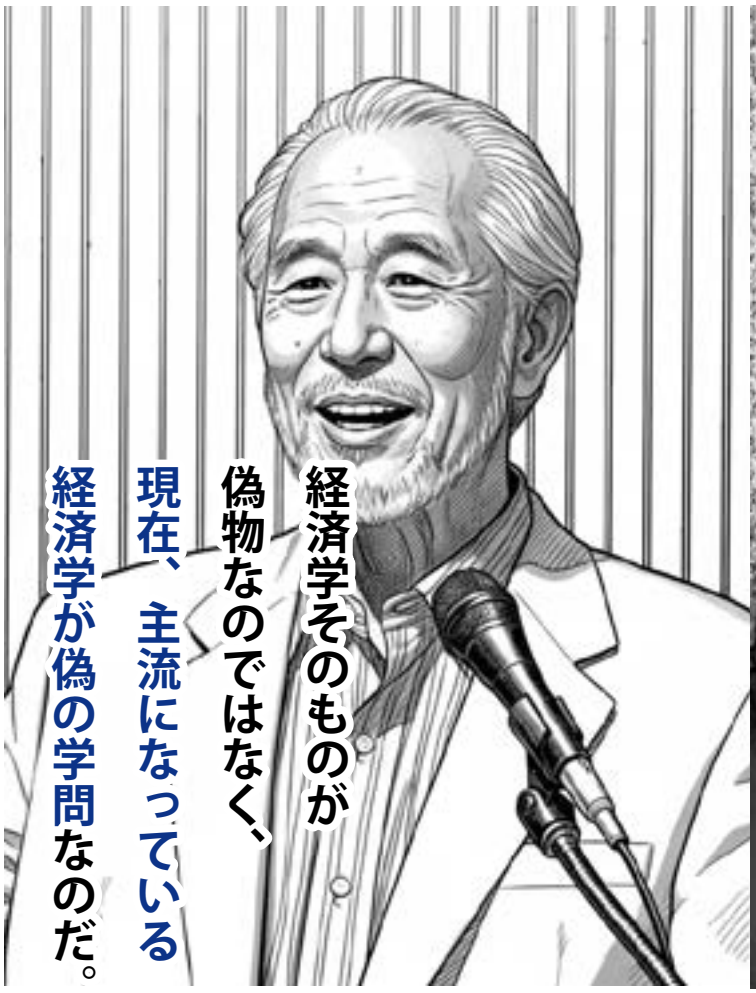
そして山口薫元教授が、
金融エリートたちが好まない、
経済学という
偽の学問の問題点をついた
論文や書籍を発表すると、

彼は同志社大学を
解雇されてしまった。

東大などの国立大学のみならず、
私立大学であっても、
「政府の私学助成金」をあてにして、
大学経営を行っているから、

同志社大学であっても、
文部科学省を通じて、
「日米合同委員会」の
支配下にあるのだ。

令和6年度 私大補助金
早稲田大学：89億円
慶応大学　：88億円
同志社大学：30億円



たとえば1929年の世界恐慌の時、
イエール大学やシカゴ大学の教授8名が、
今のアメリカの中央銀行制度はおかしい、
『通貨発行権』は『FRB』のような
民間銀行にあるべきではなく、
やはり政府に返すべきだ。
そのように考えて、
『シカゴプラン』という
『銀行金融改革』の提案を行った。

そしてこの経済学者8名は、
マスコミに邪魔されないように
細心の注意を払いながら、
さらに40名の経済学者を選び出して、
この『シカゴプラン』を送付して、
アメリカにおける『銀行金融改革』を
推し進めようとした。

しかし結局、
この『シカゴプラン』も、
リンカーン大統領や
ケネディ大統領のように、
闇に消されてしまった。

山口薫元教授も、
「現在の銀行制度」の不思議に気がつき、
研究を重ねていくうちに、
この『シカゴプラン』にたどり着いて、
そしてそれを発表したら、
同志社大学を解雇されたのだ。

『日米合同委員会』の意図に、
逆らうようなことを教える大学は、
おそらく大学として認可されないだろう。
恐るべき事実を述べるが、
憲法第23条に保障される
「学問の自由」は日本に存在しない。

ただ、もしかしたら、
慶応大学の小幡績教授などは、
経済学という偽の学問を盲信して、
本当に
「増税しなければ財政破綻する」
とバカ丸出しで
信じているのかもしれない。

そもそも「経済学」という
この言葉は
中国の言葉「経世済民（けいせいさいみん）」
から来ており、
「経世」は「世を治める」、
「済民」は「人々を救済する」
ということを意味している。

しかし90年代以降、
不景気がずっと続いて、
日本の若者の死因の第一位が、
「自殺」である惨状を見ても分かるように、

現代の経済学、
あるいは多くの経済学者たちは、
「増税」ばかり主張して、
不況を長引かせることで、
むしろ日本国民を大量虐殺してきた。

なぜなら現代の経済学は、
最も肝心な部分を議論せず、
スルーしているからだ。

たとえば経済学において、
「お金」は「血液」に
たとえられることがあり、

そして人間の体の中で
「血液」を全身に送り出している
ポンプの機能を担っているのは
「心臓」であるわけだが、

しかし現代の「経済学」では、
「中央銀行」という「心臓」について、
議論することは許されなかった。

しかし山口教授も、
リチャード・ヴェルナー教授も、
彼らは共にこう述べている。

お金は銀行が無から作り出している！

このように世界に出回っている、
経済学には巨大な問題があり、
まさにそれは、

史上最大の偽書『シオンの議定書』が、
「経済学という偽の学問を
通じて奴隷にする」
と、述べている通りであり、

『聖書』にある
「借りる者は貸す者の奴隷となる」
という言葉通りなのだ。

しかし人々は、
「経済学は正しい」
「経済学者が言うことは正しい」
「マスコミや財務省の言うことは正しい」
と、盲信してしまって、
自分の目の前で行われ続ける
「金融詐欺」に、
まったく気がついていない。

実際に1983年に『ノーベル経済学賞』を受賞した経済学者ジェラール・ドブルーは、受賞した際に記者から、こう質問された。

先生の理論は、現在のアメリカの経済において、どのように役立つのでしょうか？

そして彼はこう答えた。

私の一般均衡理論は、日々の経済活動にはまったく役立ちません。

これはつまり、ノーベル経済学者が、「人々を貧しさから救えない」と言い切ったのだ。

他にも2018年に
『ノーベル経済学賞』を受賞した
ポール・ローマーも、
2016年の講演の中でこう語る。

マクロ経済学は、
過去30年以上にわたって
進歩するどころか、
むしろ退歩した。

2008年に
『ノーベル経済学賞』を受賞した
ポール・クルーグマンも受賞の翌年、
こう述べている。

マクロ経済学の大部分は、
良くて役に立たず、
悪くてまったくの有害である。

オーストラリアの経済学者
ジョン・クイギンも、
『ゾンビ経済学』という書籍で
こう述べている。

経済学では、
既に破綻した思想や理論が、
破綻したあとも、
まるでゾンビのごとく復活し、
幅をきかせているのだ。

現代経済学の大半が、
実はすでに死んでいるのだ。

それもそのはずで、
お金の流れを考えているというのに、
「中央銀行」という心臓（日銀やFRB）、
あるいは、
「中央銀行の中央銀行」という脳（BIS）、
これらを、まったく視野に入れていなければ、
人々を救えるはずがない。

そして問題だらけの「経済学」に、
権威を与えているものに、
『ノーベル賞』というものがある。

ダイナマイトを発明した
実業家アルフレッド・ノーベルの
遺言によって、
1901年に『ノーベル賞』は創設され、

「物理学」、「化学」、「医学生理学」、
「文学」、「平和」の5部門の賞が
設けられたわけだが、

実は『経済学』は、
『ノーベル賞』の中には入っていない。

経済学賞だけは、
世界初の中央銀行
『スウェーデン国立銀行』が
創立300周年を記念して、
1969年から始まったからだ。

そのために
経済学賞の正式名称は、
「アルフレッド・ノーベル記念
経済学スウェーデン国立銀行賞」
などと、
そもそも「銀行」の二文字が入っている。

THE NOBEL PRIZE　　Nobel Prizes & laureates

nominations, whether publicly or privately
nominees and nominators, as well as inves
prize.

Not a Nobel Prize

The prize in economic sciences is not a No
central bank) instituted "The Sveriges Riks
Alfred Nobel", and it has since been award
according to the same principles as for the
The first prize in economic sciences was a
1969.

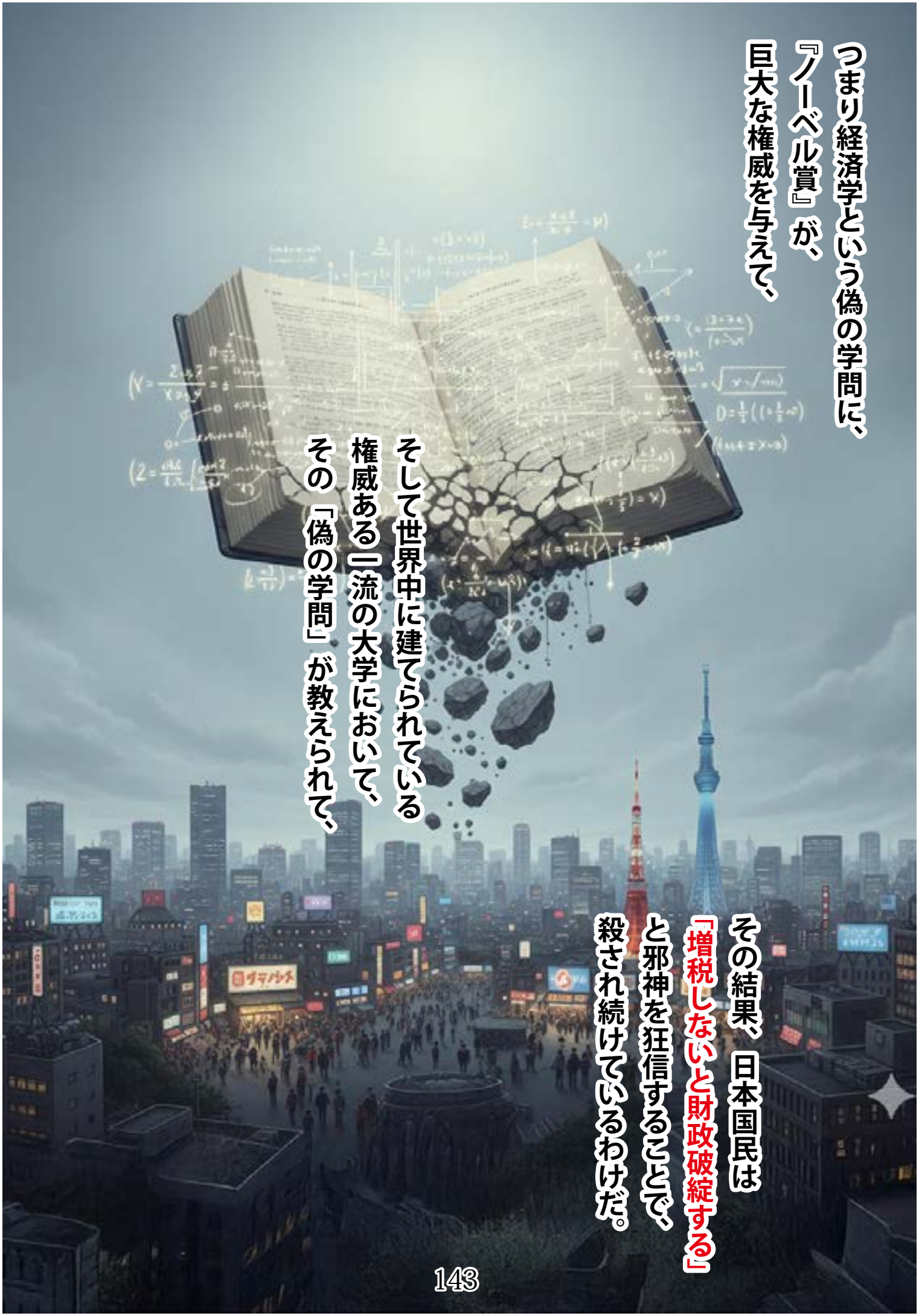
『ノーベル賞』の公式サイトにも、
「経済学賞」について、
「Not a Nobel Prize（ノーベル賞ではない）」
と、きちんと書かれてある。

ノーベル賞の
ホームページ

そのために、この銀行賞だけは、
『ノーベル財団』が
『スウェーデン国立銀行』から
受け取った寄付に基づいて、
受賞者に賞金が支払われている。

実際に1974年に
『ノーベル経済学銀行賞』を受賞した
経済学者フリードリヒ・ハイエクも、
授賞の晩餐会のスピーチで、
次のように述べた。

もし自分が相談されていたら、
『ノーベル経済(銀行)学賞』の設立には
断固反対しただろう。



つまり経済学という偽の学問に、
『ノーベル賞』が、
巨大な権威を与えて、

そして世界中に建てられている
権威ある一流の大学において、
その「偽の学問」が教えられて、

その結果、日本国民は
「増税しないと財政破綻する」
と邪神を狂信することで、
殺され続けているわけだ。

では人類が、
この愚かな邪神崇拝をやめたら、
果たしてどうなるのだろうか？

経済学者ケインズは1930年、
『孫の世代の経済的可能性』
という論文の中で、
次のような驚くべきことを述べた。

およそ100年後には、
経済的問題は解決させてしまい、
人々の悩みは
あまった時間をどのように使うか、
ということになるだろう。

実のところ、
経済学者ケインズも、
経済学という偽の学問の問題点に、
確実に気がついていた。

なぜなら、その証拠として、
シカゴ大学の経済学者8名が、
40名の経済学者を選び出して、
『シカゴプラン』を送付する際、
その40名の中に、
彼は入っていたからだ。

ケインズはわざわざ
返信の手紙を書いている。

貴方が親切に送ってくれた
『シカゴプラン』に大変、
興味を持ちました。

しかし次々と大統領さえ
殺してしまうばかりか、
戦争を最大の利益に変える
金融エリートを恐れたのか、

ケインズ自身が
「銀行金融制度の改革」に
力を注ぐことはなかった。

あえてもう一度、
ヘンリー・フォードの言葉を
紹介しよう。

この国（アメリカ）の
人々の銀行や金融への
不理解はもうたくさんだ。
もし金融の仕組みを
理解したら、
明日の朝までに
革命が起こるだろう。

それは日本もまったく同じであり、
日本人も金融の仕組みを理解したら、
明日には革命が始まるだろう。

『パナソニック』の創業者
松下幸之助氏は、
1979年11月に行なわれた講演の中で、
次のように語った。

国民は高率の税金に苦しんでいる。
にもかかわらず政府は財政窮迫(ざいせいきゅうはく)し、
赤字国債を発行して
国費に充(あ)てているという
前途暗澹(ぜんとあんたん)たる状態である。

しかし、
今から１２０年を使えば、
日本は無税国家に変われる。
Shibuya 109
Big life Cooies
この20年で研究し、
その後の１００年で
余剰金を積み立てて運用すれば、
積立額は膨大になり、
その運用益だけで予算を賄える。

「経営の神様」とまで
称された松下氏は、
さらにこんなことまで述べていた。
やり方次第、考え方次第では、
年々の剰余金を積み立て、
それをもとに「無税国家」
といいますか、
さらに一歩進んだ
『収益分配国家』ができるはずです。
百年、二百年の後には
『無税国家』、『収益分配国家』
という姿が十分実現できる
と思うのです。

国民が国家に税金を納めるのではなく、
国家が国民にお金を支払う時代、

まさにケインズが述べたように、
そうした大繁栄を迎えた国民の悩みは、
「時間をどのように使うか」
ということになっているだろう。

世界中の大手マスコミによって、
「独裁者」に仕立て上げられ、
殺されてしまったのが、
リビアのカダフィーだ。

しかし実は彼こそ、
自国の「通貨発行権」を
国際銀行家から守り抜いたことで、
リビアに大繁栄の時代を築いた。

以下が、かつてのリビアの
人々の暮らしである。

1. 電気代の請求書が存在しない。
電気は全国民、無料。
2. 融資には金利がなく銀行は国営で、
全国民に対して与えられる融資は、
法律で金利ゼロ・パーセント。
3. 住宅を所有することが人権と見な
されている。

4. 全て（違うという意見もあり）の
新婚夫婦が、新家族の門出を支援
するため、最初のアパート購入用
に政府から６０，０００ディナール
（50,000ドル×@80円/$→５００万円）
を受け取る。
5. 教育と医療は無償。
識字率は83パーセント。

6.【食糧自給率】農園を始めるための、農地、家、器具、種、家畜が、全て無料で与えられる。

7. 政府が外国に行くための資金を支払い、さらには実費のみならず、住宅費と自動車の経費として2，300ドル（23万円／月）、支払われる。

8. 自動車を購入すると政府が価格の50パーセントの補助金を出す。

9. 石油価格は、リッターあたり、0．14ドル（約14円）。

10. 対外債務は無く、
対外資産は１５００億ドルにのぼる。
11. 卒業後就職できない場合は、本人が
雇用されているかのごとく、特定職業
の平均給与を、職が見つかるまで
国が支払う。

12. 石油のあらゆる売上の一部が全国民の
銀行口座に直接振り込まれている。
13. 子供を生んだ母親は、５，０００ドル
支払われる。
14. パン40斤が０．１５ドル（10円ほど）。

15．（国民の）25パーセントが
大学の学位を持っている。
16．人工河川計画として知られる
世界最大の灌漑プロジェクトを
26年かけて遂行した。

リビアは、
「通貨発行権」を守り抜いたことで、
「無税国家」を超えた
「配当国家」を本当に実現させた。

かつてリビア人は言った。
「日本はリビアよりも豊かである。
しかしリビア人は日本人より豊かだ。」

しかしリビアは、
おそらくCIAによって
クーデーターを起こされ、
カダフィーは殺害され、

アメリカを主導とした
『NATO』に
リビアの街は破壊し尽くされ、
多くのリビア人が難民となった。

そしてその難民が、
ヨーロッパに押しかけているわけだが、
リビアのカダフィは、かうてこう述べた。

NATO（西側諸国）の人々よ、
よく聞きなさい！

貴方たちは、アフリカから
ヨーロッパへの移民を、
せき止めてきた壁を爆撃しており、
またテロリストを抑えてきた壁を
爆撃している。

リビアが「移民」と「テロ」の
壁だったのでった。

その壁を貴方たちは
破壊しているのだ。

貴方たちは愚かだ。

この壁を破壊することで、
「移民」と「テロ」によって、
貴方たちは地獄に堕ちることになる。

私は嘘はつかない。
現実となるだろう。
２０１１年４月30日。

もしかしたら、こう口にする人もいるかもしれない。

リビアが配当国家を実現できたのは、純度の高い質の良い石油があったからではないのか？

日本は資源が特に無いのだから、配当国家になることは不可能では？

実のところ日本は、高度な技術と商品とサービスによる、莫大な「対外純資産」があるばかりか、日本は「資源国家」でもあるから、日本人の意識さえ変われば、本当に配当国家も実現できるのだ。

たとえば日本には
「レアアース」がある。

「レア」は、
「珍しい」、「貴重」という意味だが、
「レアアース」は貴重な金属であり、

液晶テレビ、パソコンのハードディスク、
ハイブリッド車、
エアコンや冷蔵庫のモーターなど、

これからの時代には欠かせない
貴重で希少な金属である。

実は２０１３年４月、
日本の最東端にある南鳥島の周辺で、
この『レアアース』が
１６００万トンも見つかった。

これは世界の需要で、
数百年分に値する量であり、
これまで『レアアース』は、
中国が最大の輸出国だったが、
日本で見つかった埋蔵量は、
中国の20倍である。

あるいは、その他にも
２０２５年に京都大学が、
水と大気中のＣＯ２から
「人工石油」を生成したが、

しかし、いくら素晴らしい
資源や技術が見つかっても、

日本の政治家、官僚、経済学者どもが、
「日本を貧しくさせたい」
と考える悪魔教徒たちに、

手の平の上で転がされているために、
それらを有効活用することは難しい。

※ 2026 年より、国際銀行家の傀儡である
自民党・高市政権がレアアースの採掘に乗り出している。

映画『スライブ』を見れば、
ご理解いただけるが、
実は『フリーエネルギー』も、

すでに科学的にその存在が
認められているが、

「フリーエネルギー」の活用も
残念ながら悪魔教徒たちによって、
封印されたままである。

「日本は先の大戦に敗れて以来、
金融植民地である」
というその証明は、

現在の経済学には、
多大な問題があるにもかかわらず、

しかし『ノーベル経済学銀行賞』が、
この偽りの学問に対して、
偽りの権威を与えることで、

日本人はじめ人類の大半が
この「邪神」とも言える経済学を、
まるでカルト教団のように
盲信していることである。

「マスコミが真実を報じない」
という現実を見ても分かるように、
単純に言って、
憲法で保障されている、
「学問の自由」も、
「言論の自由」も
現在の日本には存在していないのだ。

悪しき勢力は、
憲法、法律、
教育・学問、
テレビ・マスコミ、
インターネットなど、
ありとあらゆるものを使って、
我々日本人に、
「錯覚の自由」を与えることに、
成功しているわけである。

そしてさらには、
今なお多くの資源や技術が
我々に隠され続けて、
ゆっくりと地球が、
「グレート・リセット」に
向かっている、
この現実を見ても、
日本が金融植民地である、
ということが分かる。

では、
「日本は先の敗戦以来、
金融植民地である」
ということが理解できたとしても、

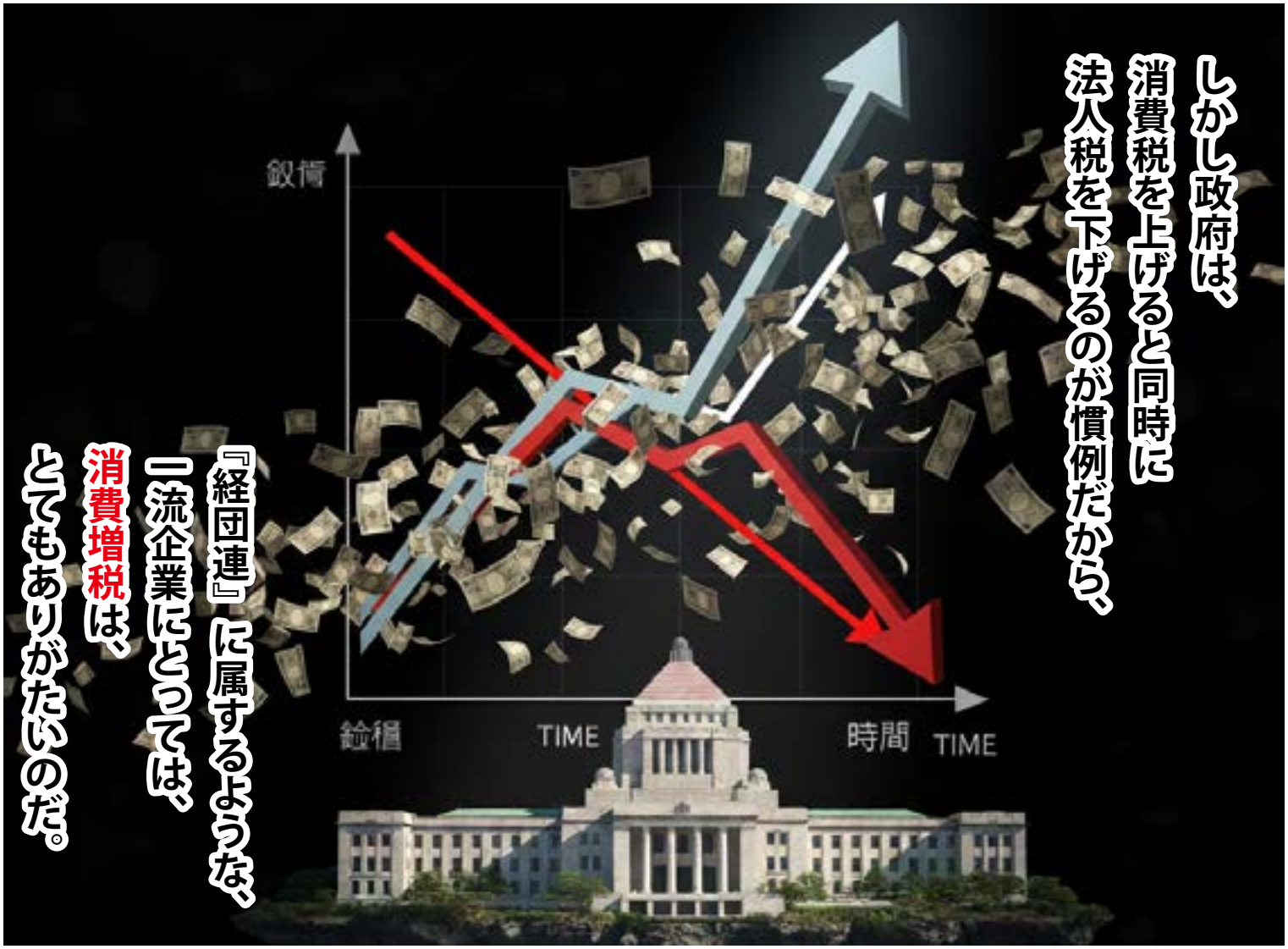
その悲しき事実は、
今後、我々暮らしに、
どんな影響を与えるのか？

消費税について、
『経済同友会』は17％へ、
『経団連』は19％へ上げることを、
政府に求めているが、

10％でも我々の暮らしは、
すでに苦しいというのに、
もしもそこまで上げられたら、
多くの人々の暮らしは、
もはや成り立たないだろう。

しかし政府は、
消費税を上げると同時に
法人税を下げるのが慣例だから、

『経団連』に属するような、
一流企業にとっては、
消費増税は、
とてもありがたいのだ。



しかしすでに述べたように、
日本には、
「政府の借金」はあっても、
「国家の借金」は存在せず、

銀行にお金を貸しているのは、
あくまでも国民なのだから、
増税する必要なんかまったくない。

だから財政破綻を気にかけて、
消費税を導入する必要も
本当はまったくなかった。

では、なぜ日本は、
わざわざ消費税を3%で導入して、
そして税率を10%まで、
上げ続けてきて、

さらに今後も
上げ続けるつもりなのだろうか？

すでに述べたように、
世界には、
ユダヤ人を自称する悪魔教徒が
現実に存在している。

彼らは
悪魔的聖絶思想を持っており、
私たちを
貧しくするのみならず、

できうるならば、
私たち大衆を
管理し易い数まで殺したい
と考えている者たちである。

そして彼らは、
日本の政治家、官僚、
有名な経済学者、

さらには
マスコミまでも、
自分たちの意のままに
動かすことに
見事に成功している。

それはつまり、
必要のない消費税というものは、
不景気によって
私たちを貧しくするのみならず、

最終的には、
私たちを殺すために設置された
「殺人システム」なのである。

「消費税が殺人システムとは、さすがに信じられない」
そう口にするかもしれない。

しかし山口薫元教授などが、
真実の経済学として
教えてくれたことだが、
政府に「通貨発行権」があった場合、
「政府の借金」は存在しないのだ。

山口元教授曰く、
もしも『日本銀行』が、
きちんと国民の幸せのために
運営されていたら、
一千兆円を超える「政府の借金」は、
雪のように解けてなくなり、

するとこれを、
わざわざ「国家の借金」と
呼び変えて、国民を欺いて、
増税することもできなくなる。

日本の自殺者数と、
長引く不況と、
そして消費増税が、
深い関わりがあるように、

日本国民は今、
一人ずつ、
お金を握りしめて、
断頭台の前に、
立たされているようなものなのだ。

好景気、不景気というのは、
結局、「お金の流れの速度」と言える。

国家を体にたとえた時、
血液のようなお金が、
きちんと国内で早く回れば好景気で、

お金が回らずに、
停滞し続けていたら不景気だ。
では、消費税は、
景気、不景気に、
どんな働きをするのか？

たとえばキャッチボールしていて、
野球のボールを投げ合って、
早い速度でボールが行き交えば、
それは好景気だ。

しかし、
片方からだけしか
投げられなければ、
それは不景気である。

次にもしも
キャッチボールしているボールを、
一万円札と考えるのならば、

10回のターンで、
経済効果は10万円となり、

100回のターンで100万円、
千回のターンなら一千万円円、
一億回ならば一億円の経済効果だ。

では、もしも投げるものが
野球のボールではなく、
雪玉だったらどうなるだろうか？

雪玉を投げて、
キャッチする度に、
雪玉は削られて小さくなり、
やがては消えてしまう。

この雪玉が、
削られて小さくなっていく部分が、
お金にたとえるならば、
消費税なわけである。

お金を使う度に、
経済効果とは裏腹に、
「消費税」と称してお金を盗られ、
その富はやがて消えていくわけである。

だがしかし、
現状から言えば、
日本は財政破綻なんか
しないのだから、

そもそも消費税そのものが
不必要なのである。

結局において、
日本における消費税とは、
日本国民に気づかせないように、
日本の繁栄を叩き潰して、

日本国民を死へと向かわせて、
超格差社会を築き上げる、
殺人マジックだったわけである。

すでに述べたように、
「経済版ホロコースト」が
始まっている以上、

日本人の意識が
何も変わらなければ、

本当に、このままでは、
我々は殺されてしまうだろう。

冒頭でも述べたように、
「3S」などによって、
GHQ占領軍だが、
日本をことごとく改造した

その総司令官の
マッカーサーはアメリカに帰ると、
次のように述べた。

日本は、まだ12歳の少年。

悔しいことではあるが、
真実を覆い隠され続けているために、
金融経済について考えてみると、
マッカーサーの「12歳」
というこの言葉は、
少し当てはまってしまう。

なぜなら2012年に、
カナダの12歳の少女が
『腐敗した銀行制度』
と題して大学で講演を行い、
「中央銀行の問題点」
について簡単に解説した。

そしてその少女の動画は、
世界中で話題となったというのに、

☜「腐敗した銀行制度」
カナダ 12 歳の少女による講演

しかし未だに多くの日本人が、
「腐敗した銀行制度」について
何も知らずにいるからだ。

マッカーサーに
「日本人は12歳の少年」
と言われたことは、
腹立たしいけれども、

しかし現実問題として
日本国民は、
カナダの12歳の少女に、
金融経済の知識において、
完敗しているのである。

冒頭でも述べたように、
この悲しき現実を
直視することこそが、
日本の繁栄の未来に、
繋がっていくことだろう。

かつてのリビアの人々が、
日本人よりも豊かであった理由、
それは、

今も日本人は、
「バビロニア式借金奴隷制度」
の中にいて、
悲しきATMと化しており、

カダフィーが、
「通貨発行権」を守ることで、

かつてのリビアの人々は、
「バビロニア式借金奴隷制度」
の外にいたからである。

すでにエピソード5で
紹介したように、
古代バビロニアにおいて、
バビロニアの人々は、
自分を担保に借金して、

奴隷の自覚の無いまま、
延々と働かされ、
しかし借金は膨れ上がり、
結局、悲惨な生活は続いた。

そしてそれはまさに
今の日本やアメリカで
起きている状況と
まったく同じであり、

我々はこの悲しき現実に、
きちんと冷静に、
向き合わねばならない。

悔しいことではあるけれども、
「奴隷の鎖自慢」をしている
ヒマなど少しも無く、
この悲しき現実を直視し、
そして勇気をもって抗うからこそ、
繁栄の扉は開くのだ。

ではもしも、
我々がこの悲しき現実に
抗わなければ、
果たしてどんな時代になるか？

すでにEP3（エピソード）などで述べたように、
悪魔教徒たちは「貧困」と「悪徳」を
望んでいるわけだが、

どうやら彼らは、
映画『バットマン』に登場する
「ゴッサムシティ」を
理想社会と考えているようだ。

「ゴッサムシティ」とは、
超格差社会による「貧困」、
それに伴う「暴力」などの犯罪がはびこる
「悪徳」の街として描かれているが、

実はアメリカの一部の地域は、
すでにゴッサム化しつつある。

アメリカがイギリスから独立した際、
「独立発祥の地」、
美しき街フィラデルフィアは今、
ゾンビが徘徊する街と化している。

なぜなら貧困化するこの街には、
生活していける仕事がなく、
若者たちは昼間からドラッグを行い、
まるでゾンビのように
街を徘徊しているからだ。

また、アメリカのカリフォルニア州では、
「950ドル（約10万円）未満の
万引きや窃盗は重罪に問わない」
という州法によって万引きが横行している。

そしてトー横キッズを見ても
分かるように
日本も徐々に「貧困化」、

「中道を超えた移民」によって、
ゴッサム化していると言える。

このままでは日本も、
ヨーロッパのように、
伝統と文化が破壊され、
レイプ、窃盗、強盗、傷害など、
常に危険にさらされ、
常にストレスを感じながら、
我々は生きていかねばならない。

私たちに待ち受けている
未来は二つしかないのだ。

一つの未来は、
バビロニア式借金奴隷制度の中で、
「経済版ホロコースト」によって、
貧しくされ、殺されて、
日本をフィラデルフィアのような、
ゾンビがさまよう街にしてしまう未来。

もう一つの未来は、
銀行制度の改革等を行い、
経済を大復活させて、
かつてのリビアのような
大繁栄の時代を迎えていく未来。

では、
どうしたら我々は
明るい未来を切り拓き、
そして
繁栄の扉をこじ開けることが、
できるのだろうか？

まず、大切なこととして、
「あまり敵を大きく強大に見過ぎず、
むしろ世界は小さく、
団結した我々こそ強大である」
という真実を知る必要がある。

アメリカのイェール大学の社会心理学者
スタンレー・ミルグラム教授は、
とても興味深い実験を行った。

その実験とは、
自分が直接、繋がりがない
「目的の相手」に宛てた手紙を、
まずは自分の知り合いに出す。

その手紙を受け取った人物に、
さらに「目的の相手」に向けて、
別の誰か知り合いに
転送してもらう。

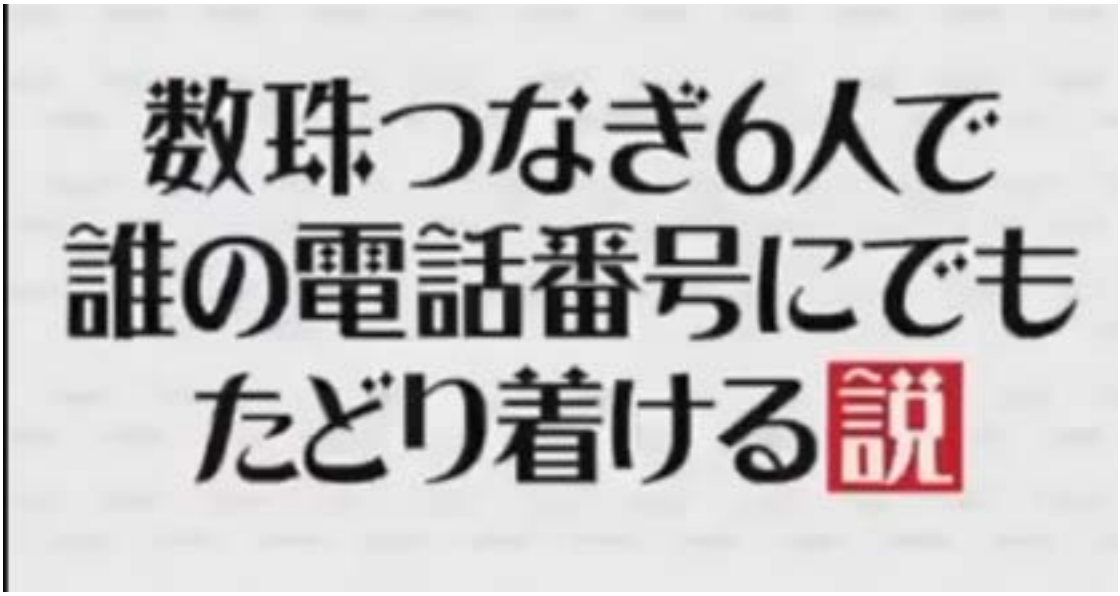
さらにその手紙を
受け取った人物に、
「目的の相手」に向けて、
また別の知り合いの誰かに
転送してもらう。

さらにその手紙を
受け取った人物に、
「目的の相手」に向けて、
またまた別の知り合いの誰かに
転送してもらう。

何人を隔てて経由すれば、
目的の人物に到達することができるか？
ということを検証する実験だった。

この実験は２０１４年
８月27日に放送された

『水曜日のダウンタウン』
というＴＶ番組でも行われた。



この番組では、
まず番組スタッフが、
街行く人に
ランダムに声をかけた。

「有名タレントの
松本人志と
お知り合いですか？」、

「松本人志と知り合いの
友人はいませんか？」、

「松本と面識が
ありそうな友人を
ご紹介して
もらえませんか？」
と、協力を求めた。

最初に協力にしてくれたのは、
アパレルショップに勤務する
ごく普通の男性だった。

番組スタッフが、その男性に
「松本と面識が
ありそうな友人はいますか？」
と質問を投げかけたところ、

2人目は新人スタイリストの
男性につながった。

彼は自分の師匠にあたる
人物を紹介してくれた。

この3人目のスタイリストは、
芸能関係で仕事をしていた。

そして彼は・・・

松本人志のマネージャーの電話番号を知っていた。

こうして
わずかたった5人の隔たりで、

目標の松本人志にたどり着いた。

「これは偶然かもしれない」と、念のためにもう2回、追加で調査を行ったが、

やはりいずれも、
たった5人の隔たりで、
松本人志にたどり着いた。

「中学校講師→舞台俳優→
芸人→芸人→松本」
といった具合である。

三度目も同じく、
たった5人の隔たりで、
松本人志にたどり着いた。

「美容師→映像編集者→
映像編集者→TVプロデューサー
→松本」といった具合であった。

この教授の理論を
少し詳しく説明すると、
『人は平均して、
44人の知り合いを持つ』
と言われている。

つまり誰でも携帯電話の
電話帳には大勢の名前が
記されているように、

もしも誰か1人の人と
知り合いになったら、
自分が直接は
知らない誰か44人と、
間接的に知り合いに
なっていることを
意味するわけである。

そしてその
「自分が直接は知らない44人」
にも、さらに
「それぞれの44人の知り合い」
がいるから、

44人×44人＝1,936人

この1936人の人々は
「2次の隔たり」
にあたる人たちだ。

そしてさらに、
この1936人にも、
それぞれ
44人の知り合いがいるから、

1,936人×44人＝85,184人

という計算になり、
この約8万5千人の人たちは、
「3次の隔たり」である。

もちろんこの約8万5千人にも、
44人の知り合いがいるから、

85,184 人× 44 人＝ 3,748,096 人

という計算になり、
この約374万の人たちは
「4次の隔たり」である。

そしてこの約374万人に
44人をかけると、

3,748,096 人× 44 人＝ 164,916,224 人

1億6千万人以上になり、
日本の総人口を上回り、
これで「5次の隔たり」である。

だから
「日本は5次の隔たりから
成り立っている」
ということが
科学的に言えるわけである。

そして「6次の隔たり」だと、

164,916,224 人× 44 人＝ 7,256,313,856 人

72億人を超えるために、
実験当時、1967年の
世界の総人口は、
約34億7千万人だから、
大きく上回ってしまう。

さらに44人をかけると、

7,256,313,856 人× 44 人＝
319,277,809,664 人

3千億人を超えるために、
地球は当分の間、
「7次の隔たり」と言える。

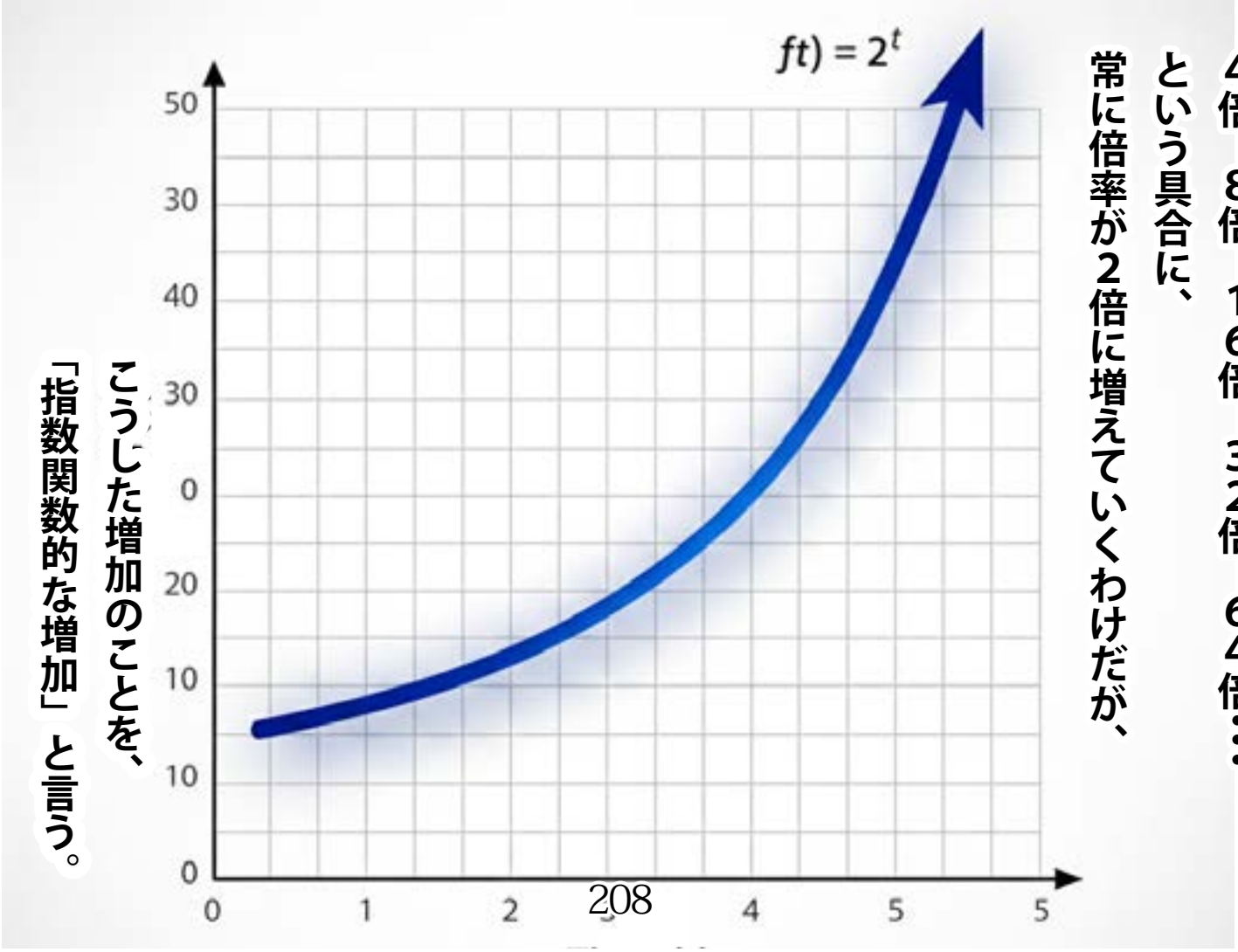
これらの実験によって、
「思っていたよりも
世界はかなり小さい」という、
「スモールワールド現象」
が確認できたわけである。

なぜ「スモールワールド現象」が、
成立するのかといえば、
それは「掛け算」というものには、
もの凄い力があるからだ。

たとえば厚さ0.1ミリの
コピー用紙を
何回、折り曲げたら
富士山の高さを超え、

そしてさらに何回、
折り曲げたら
宇宙の果てまで
届くと思うだろうか？

1回、折り曲げたら、
厚さは2倍の0．2ミリになり、
2回、折り曲げたら
4倍の0．4ミリになる。
A4のコピー用紙は、
6回、折り曲げるのが限界で、
厚さは6．4ミリになり、
これは64倍の厚さになった
ことを意味している。


4倍、8倍、16倍、32倍、64倍・・・
という具合に、
常に倍率が2倍に増えていくわけだが、
こうした増加のことを、
「指数関数的な増加」と言う。
$f(t) = 2^t$
50
30
40
30
0
20
10
10
0
0
1
2
4
5
5

富士山の高さは３７７６メートルだが、
もしも面積が無限にある紙があったら、

たった26回折り曲げただけで
厚さは６７００メートルとなり、
富士山の高さを超える。

37回で地球の直径
を超え、

わずか50回で、
地球から太陽までの距離を超える。

83回、
折り曲げることができれば、
天の川銀河の直径
約10万光年とほぼ同じ規模になり、

たった102回折り曲げれば、
その厚さは宇宙の果て、
観測可能な
宇宙465億光年（直径930億光年）
に到達する。

このように、
「掛け算が凄い」というよりも、
「指数関数的な増加が凄い」
と言える。
なぜなら
「スモールワールド現象は
指数関数だからこそ可能である」
と言えるからだ。

そして我々も、
「スモールワールド現象を利用して、
団結することができれば、
「悪魔勢力にも十分に勝てる」
ということである。

では、
どうすれば我々は、
「5次の隔たり」である
この日本において、
一致団結して、
ゴッサム化した未来ではなく、
繁栄の未来を掴み取れるのだろうか？

EP4（エピソード）でも述べたように、
ナポレオン・ヒルという方は、
悪魔と語り合い、
その内容を一冊の書物にまとめて、
出版しようとした。

しかし家族から
猛反対され出版されなかった。

しかし２０１３年、
約八十年の歳月を越えて、
その書籍は出版された。

悪魔は傲慢不遜な態度を取りながら、
我々人間の「意識」を、
どのようにコントロールしていくか、
その狡猾な手口を語った。

悪魔によれば、
人間の「意識」をコントロールする
最大の武器は「恐怖」であるという。

陛下と呼べ！

そして悪魔は「恐怖の材料」として、
「貧困」、「非難」、「病気」、「失恋」、
「老い」、「死」の6つをあげた。

中でも最も効率よく利用している
武器が、「貧困」と「死」だ。

すなわち悪魔は、
貧しくなる恐怖、
死ぬかもしれない恐怖、

これらの恐怖心を使って、
我々人間の意識を
コントロールしているというのだ。

悪魔からすると、
「嫌うタイプの人間」、
「好むタイプの人間」、
二種類の人間がいて、

悪魔が最も好むタイプの人間、
それは「流される者」だという。

権威に流される、
常識に流される、
マスコミに流される、

昨日までの自分に流される、
世の風潮に流される、
流行りに流される、

政府の発表に流される、
周囲に流される、
空気に流される、

こうした「流されるタイプの人間」こそ、
悪魔は最も好きだという。

だからEP(エピソード)8で
詳しく述べたように、
悪魔教徒たちは、
「東京裁判」を行って、
「すべて日本が悪い」
と結論づけて、

「W・G・I・P」
によって
「日本は悪い国」と
自虐史観を植え付け、

「パネルDジャパン」
によって
「アメリカは凄い」と
尊米感情を育み、

「日本人としての誇り」
を奪い取ることで、
日本人に
「国家」を忘却させた。

さらに、スポーツ（野球やサッカー）、

スクリーン（テレビや映画）、

セックス（性文化）といった「3S政策」を行うことで、

私たちのことを、悪魔が好む「流される人間」に改造してきたのだ。

それはまさに、
「悪魔的なる洗脳」とも言える。

だからこそ我々は、
悪魔を出し抜かねばならい。

では、我々は、
どうすれば良いのか？

先ほど『スモールワールド現象』で、紹介した社会心理学者スタンレー・ミルグラム博士は、

ナチスが行った『ホロコースト』のメカニズムを解明するために、「権威への服従実験」というものもを行った。

その実験とは、本当は、電流は流れないのだが、しかし

「ボタンを押すと人体に電流が流れる」という演技してくれる役者を準備する。

次に老若男女の実験対象者に来てもらい、
そして「権威」を持つ人物が、
その実験対象者に対して、
冷徹にボタンを押すように依頼する。

役者は苦痛の演技をして、
絶叫し、悶絶し、金切り声を上げる。

しかし権威ある者は、
実験対象者に対して、
冷酷な表情を浮かべて、
こう述べる。

迷うことはありません。
ボタンを押してください。
続けてください。

すると依頼された人々は、
深い息をついたり、
ためらいながらも、
9割の人が権威に敗れて、
ボタンを押し続けた。

それは結局、
「多くの人が権威に流されて、
罪なき他人に危害を加えた」
ということを意味している。

この実験から
果たして何が分かるか？

ユダヤ人迫害における
「ホロコースト」の責任者と
言われている人物に、
アドルフ・アイヒマン
という男がいたのだが、

この実験は、
その男の心理を
解明するための実験だった。

戦後、アイヒマンは逮捕されて、
エルサレムで裁判を受けたのだが、
全世界の人々が
アイヒマンを見て驚いた。

なぜなら彼があまりにも
「普通の人」だったからだ。

ユダヤ人の政治哲学者
ハンナ・アーレントは、
アイヒマンの裁判を傍聴して、
『エルサレムのアイヒマン』
という書籍を書いた。

その副題は
「悪の陳腐さについての報告」
であり、

「陳腐」とは、
「ありふれていて、臭くて、
つまらない」
という意味である。

つまりハンナ・アーレントは、
「ホロコーストという大罪も、
ヒトラーやナチスが
凶悪なだけではなく、

アイヒマンという男が、
勇気が無くて、
陳腐であったために起きた」
と結論づけたわけだ。

それは言葉を変えれば、
『人々の勇気の無さが、
大きな罪を犯してしまう』
ということである。

ハンナ・アーレントは
こう結論づける。

悪とはシステムを無批判に、
受動的に受け入れることである。

さて、すでに述べたように、
悪魔は「流される人間」を好むが、

私たち人間という生き物は、
知らぬ間に、
「流される人間」になってしまうことで、
大きな悪を犯してしまうと言えるのだ。

そして
ナポレオン・ヒルによれば、
悪魔が最も嫌いなタイプ人間とは、

「考える人間である」
であるという。

思想家にして、
哲学者パスカルはこう述べた。

人間は考える葦である。

『人間は川原に生えている、
あまり役に立たない葦のように
か弱い存在ではあるが、
しかし人間は、
考えることができるからこそ
偉大なのだ』、
そういったことをパスカルは述べた。

また孔子は、こう言われた。
学びて思わざれば則ち罔し。
思いて学ばざれば則ち殆し。
「学んだだけで考えないのでは
物事の本質は理解できない。
考えるだけで学ばなければ、
ただ独断に走る危険がある。」
という意味である。

私たち人間は学び、知識を増やし、
その上で深く考えるからこそ、
霊長類の中で最強となれた。

だからこそ哲学者の
フランシス・ベーコンはこう言った。

智（ち）は力なり。

そして「知識」の量を分けるものとして、
「関心」というものがある。

たとえば誰かのことが好きで、
相手に対する「関心」が高まれば、
「知識」の量は、
誕生日から趣味から、
好きな食べ物、音楽まで、
自然と増えていく。

逆に相手のことを
特別に好きではなく、
「関心」が低ければ、
趣味から好きな食べ物を聞いても、
その「知識」は右から左に流れていく。

「関心」が、
「知識」の量を決めるのだ。

そして人間は「知識」を持ち、
深く考えることによって、
智慧という「力」に
変えていくことができる。

だから、
現代の日本の問題は、
「関心」を持たないこと、
つまり「無関心」なのである。

しかしインドの聖女
マザー・テレサは言う。

愛の反対は憎悪ではなく、
「無関心」です。

燦々(さんさん)と輝く太陽が、
地球のありと
あらゆる生命を生かしつつ、
何も見返りを求めることがないように、

真実の愛とは、
相手に対して、
無償で与えるものである。

真実の愛とは、
相手から自分の利益のために、
奪い取るものではない。

オレのこと愛してるなら、
もう一本、ボトル入れてよ。

どうか神よ、
彼らをお許しください。
自分たちが何をしているのか、
分からないのです。

真実の愛とは、
相手に見返りを求めずに、
無償で与えるものである。

このように、
真実の愛とは、
関心を持つことから始まり、

そして
関心を持つことが、
知識を増やしていくのだが、

しかし「3S政策」などが
功を奏してしまって、
多くの日本人のが、
関心ないために、
多くの日本人が、
政治経済に対して、
いちじるしく知識が乏しい。

だから我々日本人は、
カナダの12歳の少女にさえ、
金融経済の知識において、
完全に敗れてしまっているのだ。

つまり日本の本当の問題は、
「愛の欠如」である。

戦後、私たちは日本人は、
祖国に対する「愛の心」、

日本に生きる人々に対する、
「愛の心」を奪われてきたのである。

そして「愛の欠如」を、
「自己中」と言う。

日本人は今、
無関心を超えて、
自己中になりつつあり、
そしてヨーロッパの国々は、
多くの人々が、
無関心で自己中に
生きてしまったがために、
滅びの道を歩んでいるのだ。

だから我々は、
ヨーロッパの人々を反面教師にして、
日本を護り切るのみならず、
いつの日か、
彼らの復興と繁栄に
手を貸すべきだろう。

これを踏まえて私は言う。
日本人の無関心と自己中こそが、
世襲政治を築き上げ、

その世襲政治によって、
日本の貧困化が進み、

そしてその貧困化は、
日本をゴッサム化させている。

だから、あえて、
さらに厳しいことを、
言わさせて頂く。

私たちが無関心で生きることは
間接的な強盗の支援であり、

私たちが無関心で生きることは
間接的な売春の斡旋(あっせん)であり、

私たちが無関心で生きることは
間接的な自殺の幇助（ほうじょ）である。

つまり無関心・自己中こそが、
我々の最大の敵なのだ。

古代ギリシャの哲学者ソクラテスは言った。

無知は罪なり、知は空虚なり、英知ある者こそ英雄なり。

人間が無知であることは、簡単に権威に流されてしまうために罪深いが、

しかし
ただ知識があるだけでは
無意味であり、

知識があって行動する者こそ、
真の英雄なのだ。

このソクラテスの言葉は、
『儒教』の「陽明学」にも通じる。

『知行合一（ちこうごういつ）』

もし人間としての
正しい生き様を学んで、

そして天下国家にある
汚職や賄賂といった腐敗、
国家存亡の危機を
知ったのならば、
勇気をもって行動していく、

もしも何も行動しないのならば
真に知ったことにはならない、
『知識』と『行動』を
一つの同じものとする、
それを『知行合一』と言う。

そして人を愛する心、
これを儒教では「仁」と呼び、
「己の身を殺してでも
仁を成し遂げる」、
これを「殺身成仁（さっしんせいじん）」と言う。

また人間が
生まれながらに持っている
「正しい知力」のことを
「良知（りょうち）」と言い、
「良知」に従って日々、行動し、
生命を生き抜くこと、
それを「致良知（ちりょうち）」と言う。

『知行合一』、『殺身成仁』、『致良知』、
これこそが、
『儒教』陽明学の神髄であり、

そしてかつての日本の侍たちは、
こうした『儒教』陽明学の神髄を
当然のように学び、知り、
また常に心がけて生きていた。

しかし悪魔教徒たちは、
戦後八十年にわたって、
私たちが流されるように
眠らせてきたのだ。

「睡眠」を意味する「sleep（スリープ）」と
「羊」を意味する「sheep（シープ）」が、
似ていることから、
「眠れない時に羊を数える」
という話がある。

また羊には
「前に歩く羊に付いて行く」
という習性がある。

そのために羊飼いは、
先頭を歩く
たった一匹を誘導するだけで、
何百匹、何千匹という
羊の群れを導くことができる。

そのために、
先頭の羊が崖から落ちたら、
わざわざその後に続いて、
次か次へと自分から飛び降り、
数百匹の羊が圧死した、
という話はたくさんある。

『シープ』と『ピープル（大衆）』を
合わせて、
「眠れる臆病な羊の集団」
という意味で、
「シープル」という造語がある。

悪魔と悪魔教徒たちは、
侍の子孫である我々日本人を
羊にし、眠らせて、
流され続ける「シープル」に
なるように仕向けて、
集団自殺さて、

日本のゴッサム化を

目論んでいるのだろう。

しかし考えて頂きたい。

もしも

「オレオレ詐欺」の被害にあって、

せっかく老後のために貯めてきた

何百万円もの貯金を、

誰かに盗まれたら、

誰だって怒るだろう。

しかし実際は、
それとまったく同じようなことが、
我々に対して、
こうしている今現在も、
この瞬間にも行われているのだ。

すでに述べたように、
現在の日本の貯蓄ゼロ世帯の割合は、
全体の約20％以上、
単身世帯では約36％だが、
しかし本当は、
何百万円ものお金を、
貯金できたはずなのだ。

そしてもしもそうであるならば、
お金で悩んだり苦しんだりなどせずに、
もっと楽で
豊かな暮らしができたはずなだ。

しかし「不必要な増税」
というカタチで、
今、この瞬間にも
盗まれ続けており、

それは毎日、毎日、
詐欺に遭っているような
ものなのだ。

だから我々日本人は、
怒らなければならない。

しかしその怒りとは、
自分の老後や将来について
考えて怒る、
「私憤」ではなく、
愛や正義の観点からの生じる、
「聖なる怒り」、
「公憤」でなければならない。

ただヒステリックになって、
感情的になって怒り、
『ワー、ワー』と騒ぎ、
わめいたところで、

未だ無関心の中で、
眠り続ける人々の心を
開くことはできない。

ただの悪口、罵詈讒謗は、
無関心な人々の心を
むしろ閉ざすために、

眠れる彼らが、
目覚めた我らの仲間となって、
一緒に戦いに加わることは
ないだろう。

かつて
ガンジーやキング牧師が、
「人種差別」という悪に対して、
勇気を奮い、

「聖なる怒り」によって戦い、
そして大勢の人々を巻き込み、
人々と共に、
時代を変えたように、

「公憤」、
「聖なる怒り」こそが
人々の心に届く。

インターネットもメールも無い時代、
キング牧師は25万人の聴衆の前で、
有名な演説を行った。

私には夢がある。
それは、いつの日か、
私の4人の幼い子どもたちが、
肌の色によってではなく、
人格そのものによって
評価される国に住む
という夢である。

25万人の四割の6万人が
白人であり、中には8時間も、
バスに揺られてワシントンにまで、
やって来た人さえいた。

彼らは何のために来たのか？
アメリカのため、
アメリカの正義と未来の
ためである。

「私憤」、
「感情に基づく怒り」は、
憎しみや呪う想いに
裏付けられているのに対して、

「聖なる怒り」とは、
愛と勇気と正義に裏付けられ、
人々の心を振るわせるために、
眠れる人々の心を目覚めさせるのだ。

私には夢がある。
それは、いつの日か、
かつての奴隷の息子と、
かつての奴隷所有者の息子が、
兄弟として同じテーブルに
つくという夢が。

あえて今一度、言うが、
テレビや新聞といった
オールド・メディアは、
悪魔勢力の手の中にある。

しかし
『YouTube』を始めとする、
「GAFAM」も
彼らの手の中にあり、
『X』だってけっして完全ではない。

すなわち真実を広める手段は、
ネット等を使いつつも、
「人から人へ」ということこそ、
最高の手段なのだ。

科学文明の発達によって、
「正しい人間性」
さえ失われつつある現代だが、

「人の温もり」こそが、
悪魔に打ち勝つ、
我々の最大の武器なのだ。

そしてこのEP9（エピソード）で述べたように、
実は世界は小さい。

日本は
たった「5次の隔たり」
から成り立っている。

だから流されることなく、
考える人となり、
そして知を武器に、

そして行動する上で
もっとも大切なものこそ、
「聖なる怒り」である。

勇気をもって
行動することこそが今、
我々には求められている。

なぜなら
「聖なる怒り」には感動があるからだ。

今、日本人に必要なもの、
それは愛と勇気と正義の心、
そしてその心から生じる、
「聖なる怒り」である。
そしてそれをかつて、
日本人は『侍精神』と呼んだ。

次のエピソード10では、
いよいよ「勇気の本質」について、
そしてなぜ日本人が、
武士道と勇気を
失ってしまったのか、
その謎を解き明かしたい。

漫画寄付金のお願い

皆さまのお力が、この物語を次の章へと導きます。

作品を生み出すということは、時間と覚悟を注ぎ続ける営みです。
真実を描くための資料集め、制作環境――そのすべてを支える力が必要です。
皆さまのご支援が、物語の続きを創造する原動力となります。
政治の真実、武士道精神の目覚めを促す一歩のため、ご支援賜れれば幸いです。

ご寄付の使い道

本作品の制作における主な経費は
以下の通りです。

- 資料購入、漫画素材購入
- 制作環境維持費
  （ソフトウェア、
  各種 AI サブスクリプション、
  機材 等）
- 制作時間の確保
- その他、作品公開のための
  諸経費

❶クレジットカードでのご寄付

https://secure.telecomcredit.co.jp/inetcredit/secure/manual-order.pl?clientip=74164

❷PayPal でのご寄付

https://www.paypal.com/paypalme/bushidoyamato

❸銀行振り込みでのご寄付 下記口座へ、お振込みください 。

●ゆうちょ

記号 00280
番号 105770
名前 シャ）ブシドウ

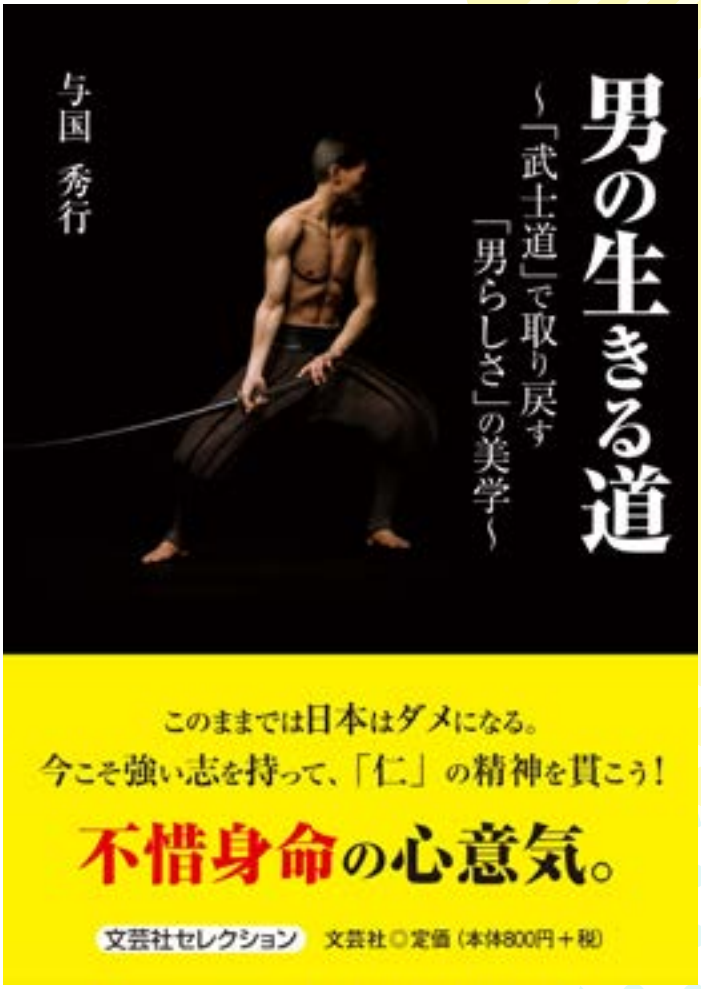
●ゆうちょ銀行

支店名 ゼロニキュウ 〇二九
口座番号 当座 0105770
口座名 シャ）ブシドウ

※ご寄付は任意です。100 円から、お気持ちだけでも十分に励みになります。
※いただいたご支援は制作継続のため大切に活用させていただきます。

Amazon で販売中！

電子書籍 1.500 円



文庫本 880 円

その他にも オーディオブック
『武士道を行く』→

←与国秀真作詞『BUSHIDO42』